



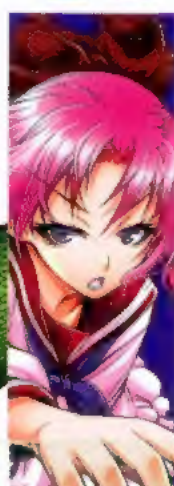
JUMP COMICS 
10

めだか

ボックス 10

ボックス

原作 NISIOISIN 漫画 AKATSUKI AKIRA
西尾維新×暁月あきら
幸せになりたい奴が
いるのなら。
全編 死闘の 第10巻!!



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら
◆ 集英社


9784088702247


1929979004002

ISBN978-4-08-870224-7

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税


ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-24

かい 計戦、球磨川による分断作戦と、成長を遂げる江迎
会 の過負荷に苦戦する人吉母子。だが善吉が手にし
た新たな「眼」が江迎を追い詰め、徐々に形勢は有利に。
しかし勝機が見えたその時、球磨川が思わぬ行動に…!?



週刊少年ジャンプ
大人気連載中!!

「普通」「特別」「異常」
そして「過負荷」の
予測不可能!!

学園バトル!!



JC
1~9巻
大絶賛
発売中!!

定価:各巻420円(税込)





JUMP COMICS

10

めだか

めだかボックス 10

ボックス



「初めまして」

原作 西尾維新 漫画 暁月あきら

原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



ISBN978-4-08-870224-7

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税

ジャンプ・コミックス

雑誌 43094-24

かい 計戦、球磨川による分断作戦と、成長を遂げる江迎
会 マイナスの過負荷に苦戦する人吉母子。だが善吉が手にした新たな「眼」が江迎を追い詰め、徐々に形勢は有利に。
しかし勝機が見えたその時、球磨川が思わぬ行動に…!?



今巻の作業中に東日本大震災が

起きました。

仕事場的には物が落っこちたくらいで

済んだのですが、その後がいろいろ

大変です。

もっと日頃から防災意識を高めないとい

なあ、と痛感しました。



暁月あきら
AKATSUKI AKIRA



西尾維新
NISIOISIN

『もしもドラえもののひみつ道具を
ひとつ出してもらえたら、どれが欲しい?』
って問いかけがあるじゃないですか。
タケコプターとか。どこでもドアとか。
僕はこれに、かつてこう答えたことがあるんです。
『ひみつ道具なんてひとつもないよ。
ドラえもん、きみがそばにいてくれるなら』
満点の回答ですが、
今から思えば不思議と怒りさえ覚えますな。
さておき もしもボックス第10巻、
もといめだかボックス第10巻。
存分にお楽しみください。



●週刊少年ジャンプ・日23年3・4合併号～13号掲載分収録



MEIDAKA-BOX

めだか
ボックス

さあ忙しくなってきたわ忙しくなってるわ。大盤振る舞いのてんでこ舞いよ。人吉くん
ったら私の作ったお味噌汁を飲みたいだなんてとてもかわいらしいことを言ってくれん
だから。もう、簡単に言わないでほしいわ、確かに私の「荒唐した腐花」はそんな風にも
使えるかもしれないけれど、でも過負荷のコントロールってそこまで簡単なものじゃない
んだから。私は志布志ちゃんとは違うのよ、気軽な頼みことにもほどがあるわ。まったく
もう甘えんぼさんなんだから。だけど仕方ないわね、あんな風に頼まれちゃったら断るな
んでできないもの。おいしいお味噌汁をたくさん作って毎朝と言わず一時間おきに届けてあ
げちゃうんだから。ううん、さすがに一時間おきはやり過ぎかな、一時間半おきぐらいが
妥当よね。あんまりやり過ぎると引かれちゃうもんね。何事もほどほどが大事よ、私もい
い加減それくらいは学習しなくっちゃいけないわ。あ、でもそうだ、考えてみたら作れる
のはお味噌汁だけじゃあないわね。発酵食品ならどんな食品でも私は作れるはずだわ。ヨ
ーグルトでも納豆でも、なんでもね。貴腐ワインなんかでも作れるんじゃないかしら。ああ、
貴腐。なんて美しい言葉なのかしら。でもお酒はまずいからね、ううん、そういう意味じ
やなくっておいしいんだけど、私と人吉くんはふたりとも未成年なんだから。大人の嗜み
は、ちょっと先を待たなければいけないわね。残念だけど、将来の楽しみが増えたと思え
ばいいことよね。それに私達はお互いがお互いに酔っているようなものなのだから、
ひよっとするとお酒は生涯必要ないかもしれないわね。まあいいわ、とりあえず今はこの
お味噌汁に集中しなくっちゃ。色んな種類のお味噌を作って、どれがいいか人吉くんに
選んでもらおう。そうだ、そのときは緊張しちゃって長々と喋らないように注意しなく
ちゃいけないわね。私ったらついお喋りが長くなっちゃう癖があるのよね。でもこれ
からはそういうのも控えるようにしないといけないわ。だって私は幸せになりたいんだも
の。さあ、できてきたわよ、最初の一回分。味噌汁っていうか、味噌を吞んでもらうわ。
ここに居並ぶ大量の味噌樽を目にしたときの、人吉くんの喜ぶ顔が目に見えちゃうわ！



10

『初めまして』

めだかボックス 10



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



ジャンプ・コミックス
集英社



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

★この作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、いっさい関係ありません。

JUMP COMICS 

10

めだか

ボツ

「初めまして」

原作 西尾維新 漫画 暁月あきら



人物紹介

めだかボックス

じんぶつしょうかい



くろ かみ
黒神めだか
しよぞく ねん くみ
所属:一年十三組
けつえきがた エービーがた
血液型:AB型
せいと かいしやう
生徒会長



ひと よし ぜん きち
人吉善吉
しよぞく ねん くみ
所属:一年一組
けつえきがた エービーがた
血液型:AB型
しよむ
庶務



あ く ね こう せ
阿久根高貴
しよぞく ねん くみ
所属:二年十一組
けつえきがた エービーがた
血液型:AB型
しよき
書記



せ かい じま
喜界島もがな
しよぞく ねん くみ
所属:一年十一組
けつえきがた エービーがた
血液型:AB型
かい
会計



しら ぬ い はん そで
不知火半袖
しよぞく ねん くみ
所属:一年一組
けつえきがた エービーがた
血液型:AB型



ひとしづみ
人吉瞳



こが
古賀いたみ



なせ とうか
名瀬天歌
(黒神くじら)



くま かみ せせ
球磨川禊



ちよう じゃ ほう とけ りゆう
長者原融通



ひ の かげ くらう どう
日之影空洞



し ぶ し しぶ せ
志布志飛沫



え り えり
江迎怒江



くろ かみ まくろ
黒神真黒



ちよう か せき か ぎぎ まる
蝶ヶ崎蛾々丸

STORY

ストーリー

黒神めだか率いる箱庭学園生徒会。善吉、阿久根、喜界島が加入し、現在は四人で活動中である。球磨川禊ら過負荷との「生徒会戦争」。初戦の庶務戦、善吉VS球磨川は善吉の勝利に。その裏で志布志らに凶化合宿中の阿久根と喜界島が急襲されて、二人の参加が不可能に。メンバーの足りない現生徒会側は書記戦に名瀬天歌が参戦。志布志と激闘を演じ、見事名瀬が勝利を納める。続く会計戦は、人吉瞳VS江迎。両パートナー、善吉と球磨川が爆弾を内蔵した腕輪を装着し人質と化した対決の行方は!?

MEDAKA

CONTENTS

10

| | | |
|------|---|-----|
| 第80箱 | 「帰 ^{かえ} ってきてくれるから」 | 7 |
| 第81箱 | 「僕 ^{ぼく} の恋 ^{こい} は本物 ^{ほんもの} だったんだ」 | 27 |
| 第82箱 | 「あんたの息子 ^{むすこ} だぜ」 | 47 |
| 第83箱 | 「仲間 ^{なか} 思い ^{まおも} いな男 ^{おとこ} なんですよ」 | 71 |
| 第84箱 | 「わかりあうことができたのかなあ」 | 93 |
| 第85箱 | 「私 ^{わたし} はずっと楽 ^{たの} しみにしていました」 | 115 |
| 第86箱 | 「不慮 ^{ふりょ} の事故 ^{じこ} ですから」 | 135 |
| 第87箱 | 「当 ^あ たり前 ^{まえ} の人望 ^{じんぼう} です」 | 155 |
| 第88箱 | 「初 ^{はじ} めまして」 | 175 |



BOX

『荒廃した腐花』

狂い咲き

バージョン…



植物を操る

過負荷だって…!?

第80箱

帰ってきてくれるから

冗談じゃねえ！
植物園において
植物を操るとか

長者原くん！
反則にはなんねーのか
あれは!!

はあ—
しかしくじ引きで
決まったステージで
ございますので

そして
繰り返しになります
形式上現生徒会側が
ある程度不利なのは
当然のことかと…



チツ…
おい黒神
お前から何か
言ってやれよ

このままじゃ
瞳先生が
ピンチだぜ

…確かに不公平なステージで
しかも危険なルールなので

善吉のことは
心配ではありませんけど

しかし
お姉さま

人吉先生がピンチと
いう風には
私には見えませんが…



庭弄りの守護神

ガーデン・ディアン

伐採版!!

なぐりば

だい 第80箱

「帰ってきてくれるから」

庭師っていうか...

もはや
マタギだ!!

善吉くん！ちゃんと
ついてきてる!?

そして本当にこっちで
あってるんでしょーね!?

ああー
名瀬先輩に敵々
訓教されたからな

どれほど植物で
目隠しをされようが
通負荷の位置なら
肌で感じるぜ

特に球磨川の
気持ち悪さは
強烈だからな!

なるほどつまり
遠恋してる恋人を
感じ取るように!

善吉くんには
球磨川くんが
感じ取れるってことだ!

そのつまりは
言わなくて
いい!!

とにかく
オッケ!

球磨川くんは
この先に
いるわけね!

……..
おいお母さん

球磨川を
警戒すべきなのは
わかるけど――

あくまで会計戦の
対戦相手は江迎なんだぜ

そこはちゃんと
わかってるよな?



わかってるわよ

そんなこと――

十三年前
ねんまへ

箱庭総合病院
はこにわそうごうびょういん

心療外科医という
仕事が好きだったし
それ以上に誇りも
持っていた

もちろん
フラスコ計画の暗部は
知っていたけれど

それでも
私が計画を主導する
「彼ら」に協力し続けたのは

異常と呼ばれる子供達を
少しでも社会に馴染ませて
あげたかったからだ

私自身異常と呼ばれながら
育った子供だったから

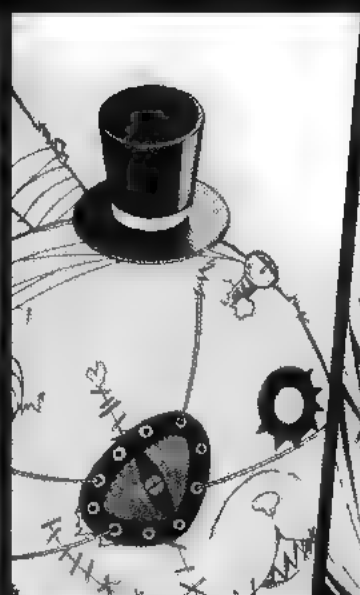
おこがましいけれど
それが自分の使命なんだと
思っていた

人吉先生！

そろそろ午後の診察を
始めていただいて
よろしいでしょうか？

あうん
お待たせ

もう準備
できてるから
いつでも――







お母さん！
かあ

いたぞ
くまがわ
球磨川と江迎だ!!
えむかえ



一瞬で決める!!
いっしゅん

躊躇はしない
ちゅうち

喋る暇も与えない
さべる



植物で作った
ダミー…!!?

なっ…

!?



くまっ…

がわっつ……!!

「作戦成功」
「そして今だよ
怒江ちゃん」

「思いつきり
やっちやっつて」

了解です☆





「いえいえ
今回はフェアプレーに
徹します」

「僕の役割は
あくまで引き分けまで」

「人吉先生と
怒江ちゃんとの接触を
断つことだけです」

引き分け
まで……？

なにそれ？
マイナス十三組が勝敗を
度外視するのは恒例だけど……？

タイムアップになれば
善吉くんと球磨川くんの
腕輪が爆発する

麻務戦の時と同じで
善吉く人を傷つけたいだけ？
いやあの時にも
ちゃんと目的はあった——

……そういえば
さつきはどうして
善吉くんの後ろを取る
ことができたの？

善吉くんはあなたのことを
肌で感じることに
できるはずなのに

「ああ」
「それは簡単な
ことです」

「僕の気持ち悪さを
肌で感じる——なんて
酷い修辭的表現を彼は
しますけれど」

「要するにそれって
気配を感じているって
だけのことでしょ？」

「だから」

『僕の気配けはいを
なかったことに
しました。』



…どうして
そんなことが
言えるのよ

その強さゆえに
誰からも

忘れられてしまった
日の影くんの苦しみを

あなたはちゃんと
知ってるはずなのに
……

みんなが大切に
しているものを
平気で踏みにじり

そうかと思えば
みんなが恐れ怯えることを
平気で受け入れる

球磨川くん

そんな自分に
あなたは本当に
何の疑問も
感じないの？

自分が
何のために
生まれてきたのか

考えたことは
本当に一度もないの？

「……………」
「それが勝負の後に
聞きたいことって
やつですか？」

「あはは」

「変わらないですねえ
人吉先生」
「あなたは初めて会った
あの時のまんまだ」

……
駄目よ

カルテに嘘は
書けないの



.....



そして検査を
するまでもないわ

あなたは
明らかに異常――

ううん
それ以上の

それ以下の
何かよ



「じゃあ
取引しましょうよ
人吉先生」

「あなたは異常者の
研究ができれば
いいんでしょう？」



『まだこの病院で
検査を受けていない
異常者二千分分の
データです』

『これを
差上げますから
僕のことは
見逃してください』

あなた！

そんなもの
どうやって集め
…………

「方法なんてどうでも
いいでしょう？」

「重要なのは
このデータを
運用すれば」

「あなたの研究は
飛躍的に進歩すると
いうことです」

…もつと駄目よ！

そんな賄賂じみた
取引には
応じられない

キイツ

ご両親には
ありのままを
報告させてもらうわ

…あなたは多分
入院することにな
ると思う

私には
心療外科医としての
誇りがあるし

あなたのような
子供を

幸せにしてあげる
使命があるもの！

…………

『託児室たくじしつにいる
あの子こって』

『人吉先生ひとよしせんせいの
お子こさん
ですかあ？』



『二歳さいくらい
ですかね』

『あはは』

『今いまが可愛い盛りさか
ですねえ』



『僕ぼくって
寂さびしがり屋やだし』
『見み知らぬ病院びやういんで
一ひと人りきりなんて
不安ふあんで怖こわいから』

『もしも入院にゅういんしたら
彼かれに友達ともだちになつて
もらおうかなあー』





なによそれ
脅迫？

賄賂と同時に
脅迫って…

一丁前に
アメとムチの
つもり？

「いえいえ」

「両方ムチです」

ズズ



「僕を見逃せば
あなたは賄賂を受け取った
誇りなき医者になり」

「僕を見逃さなければ
あなたは実の息子を見捨てた
使命なき医者になる」

「まあ
どちらにしても」

「あなたの生き方は
ここを境に
折れ曲がりますから」



「あの時は
見逃していただいて
ありがとうございました」

「お陰で僕は
幸せになることなく
今日まで楽しく生きて
こられましたよ」

「ところでその後
風の噂に
人吉先生が医者を辞めたと
聞いたんですけど」

「なにか嫌なことでも
あったんですか？」



「そういえば
この状況も
あの時に
似てますね」

「善吉ちゃんのことを
心配でしょう？」

「百円くれたら
彼を傷つけないよう
怒江ちゃんに
電話してあげても
いいですよ」

全然違うわよ
球磨川くん

あの時と今とじゃ
全然違う

善吉くんは
もう子供じゃない

一人の

一人前の
男よ

この間の
庶務戦を見て
確信したわ

あの子にはもう
母親の過保護は
必要ない

引き分けを狙う
あなたの思惑は
またも外れるのよ

そうやって
私を足止めしても
無駄なの

だってあの子が
すぐに江迎ちゃんを連れて
お母さんのところに
帰ってきてくれるから――

「……」





ちゃんと戻す。
なお

いいから今回は
もう帰るなさい
人吉くん

球磨川くんに
なかったことにされた
視力については

僕がサビスしておいて
あげるからさ

生徒会戦挙編が
終わった頃に
またおいで

もうめだかちゃんを
泣かせちゃあ
駄目だよ

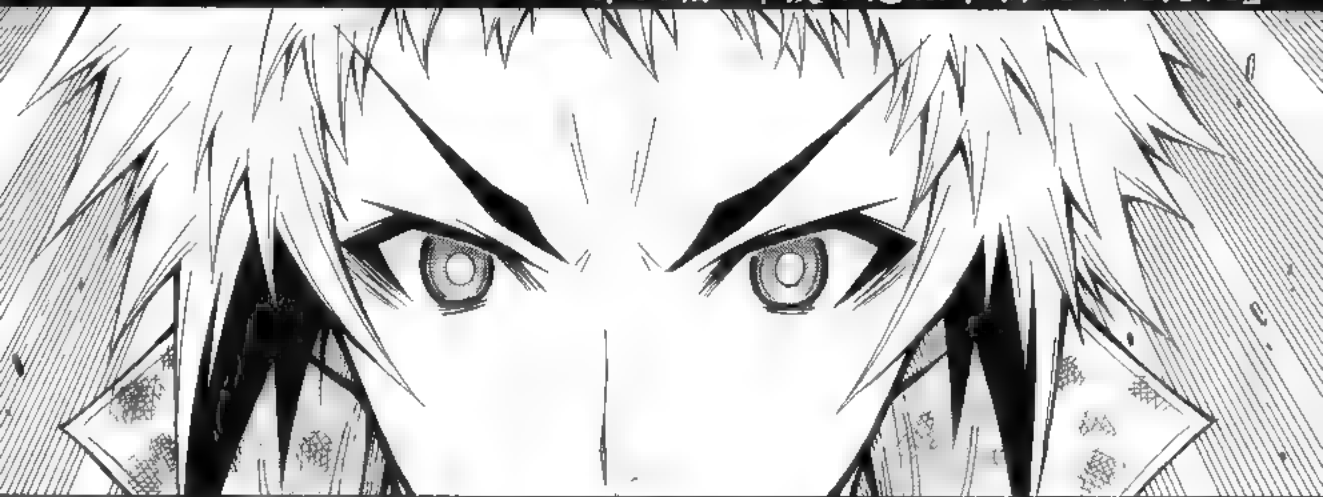
なあと
大丈夫さ

僕が貸してあげる
その目があれば

「欲視力」があれば
戦拳を生き残る
くらいは楽勝だ――

だい 第81箱

「僕の恋は本物だったんだ」





だいこ
第81箱

ほんもの
「僕の恋は本物だったんだ」



……！
私の二丁包丁が
かすりもしない！

紙一重で！
最小限の動きで
かわしている――

……庶務戦で
球磨川に殺されかけて
以来

あの「大嘘憑き」で
視力を「なかったこと」に
されて以来

な―んか逆に
目がよく見えるように
なったんだよ――俺！

まるで臨死体験を
した時にでも
誰かに会って

代わりの目ん玉を
ふたつばかし
もらったかのように――

ズッ



さつきとあの欄を
引っ込めな

球磨川の相手を
お母さんひとりに
任せとくわけには
いかねーんでな

なによ…
必死になっちゃって
馬鹿みたい

あんまりお母さんお母さん
言ってるお母さん
マザコンだって思われちゃうよ
人吉くん

マザコン？
なんとも
思えばいいさ

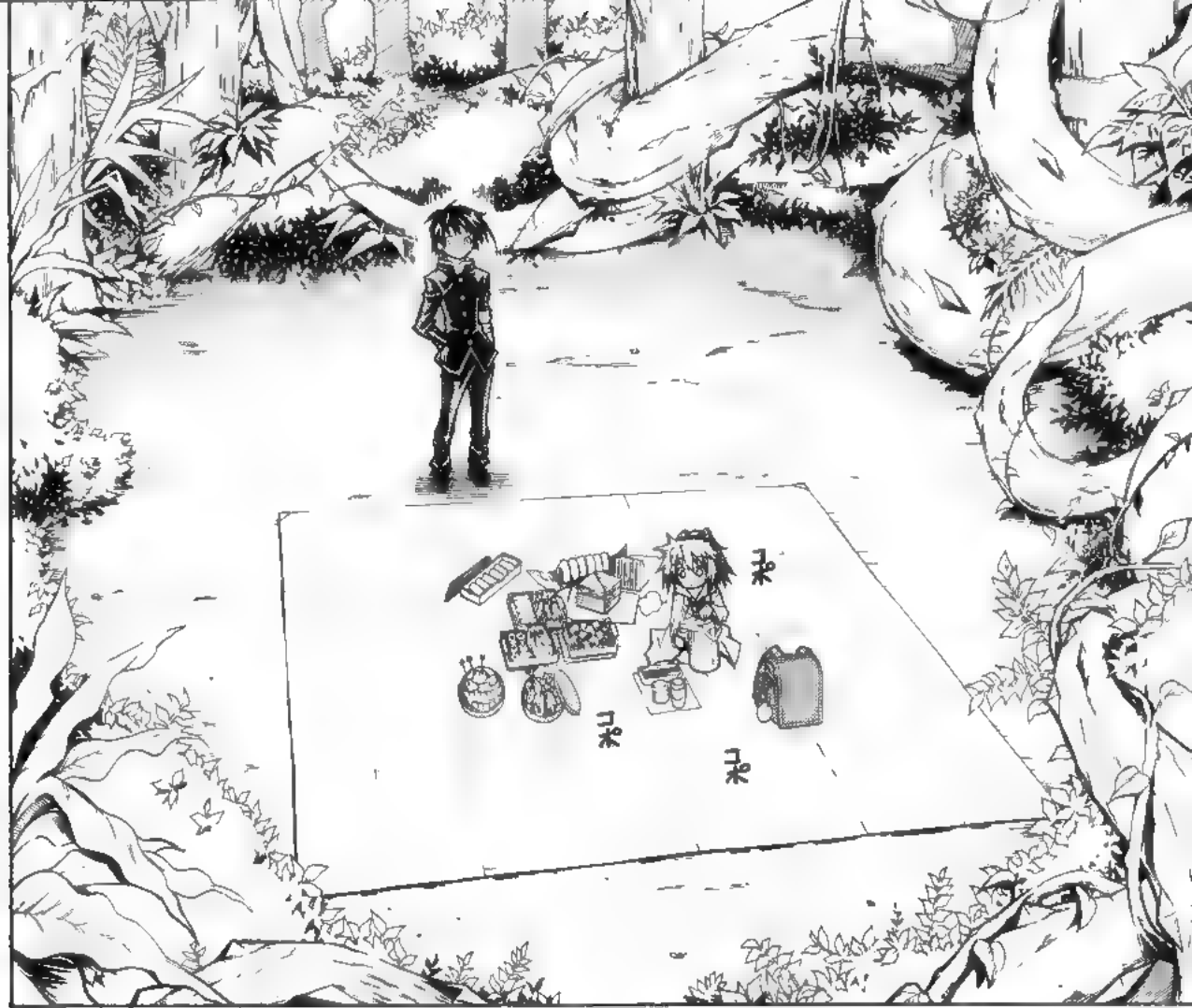
息子が母親を
愛するのは
当然のことだ

俺は
お母さんが
大好きだ！

それを
恥ずかしいとは
思わない!!

待っててくれ
お母さん！

すぐに俺が
助けにいくからな



「わかってるん
ですか人吉先生？」
「引き分けると
いうことは」

「あなたの可愛い
善吉ちゃんが
爆死するということ
ですよ？」

んー

まー死んだら
死んだで
仕方ないんじゃない？

さっきも言ったけど
彼ももう子供じゃ
ないんだしいー

なんてね！

戸惑ってる
戸惑ってる
困っている
言ってもいいわ！

やっぱり
球磨川くんみたいな
劇場型はこんな風に

相手にされないことが
一番こたえるみたいね

こんなこと今までは
球磨川くんに試そうとも
思わなかった

だけど麻務戦の時
球磨川くんにも
感情があることがわかった

かんじよう
感情があるのなら

心療外科医は
それを揺さぶれる!!

善吉くんが合流するまでに
せめてあの時の感情の
あの時の表情の

十分の二でもいいから
引き出せば





「初恋とか嫌がらせて書つてるとしか思つてなかったけど」

「何この子
恋愛感情まであつたの？」

「彼女は僕が生徒会長をやつていた頃の副会長でしてね」

「支持率0パーセントの僕がまがりなりにも生徒会長を務められたのは」

「彼女のお陰と
言う他ないでしょう」



「とにかく魅力的な人でした」

「魅力的な人格と
魅力的な心の
持ち主でした」

「僕みたいな
過負荷でも
彼女といれば」

「まともな人間に
なれるんじゃないかと
思うほどに」



「ただひとつだけ問題がありましてね」

「それは彼女が
可愛過ぎた
ことです」

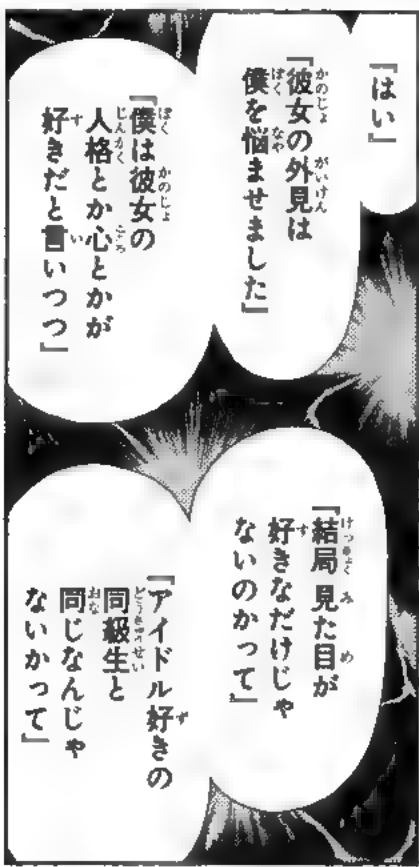


「可愛過ぎた…？」

「それは顔がつて
意味？」

「嬉しそうに…
いつそ誇らしそうに囁く…」

「少なくとも嘘をついている
風には見えない——」



「はい」

「彼女の外見は
僕を悩ませました」

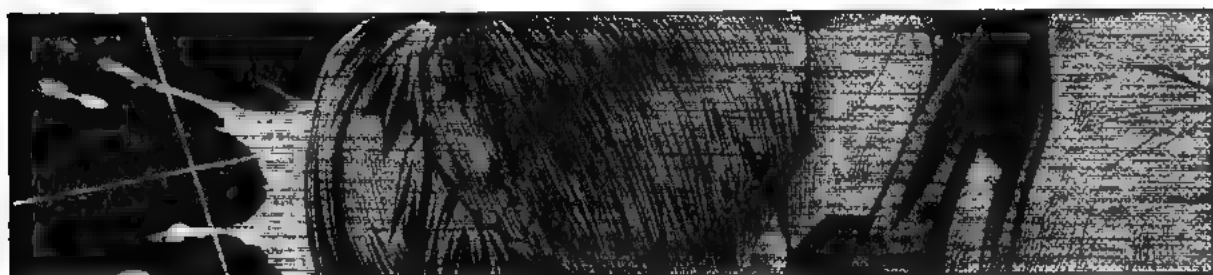
「僕は彼女の
人格とか心とかが
好きだと言いつつ」

「結局見た目が
好きなかだけじゃ
ないのかって」

「アイドル好きの
同級生と
同じなんじゃ
ないかって」

『だからちょっと
ため
試してみたくなって』

『僕は
かのじよ
彼女の顔を
剥がしました』



『結果僕は彼女の
おしも
思いは少しも
変わらなかった』

『剥がした皮も
残った肉も
おなじに見えた』

『僕の恋は
ほんもの
本物だったんだ！』



「その後彼女とは
「夢の中」でしか
会っていませんけどね」



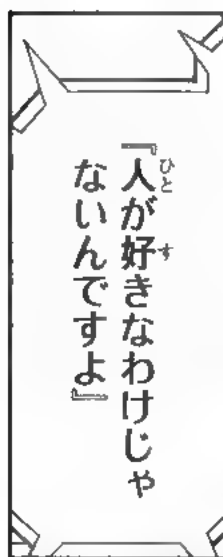
「……もつとも」
「直後にめだかちゃん
マジギレして
僕は学校から追い出され」



「他人の恋路を
邪魔する奴は」
「馬に蹴られて
地獄行きですよ」



「まったく
めだかちゃんは
当時から
空気を読まない
ですよ」



「あの子は人間が
好きなだけで」

「人が好きなわけじゃ
ないんですよ」



「きつと
めだかちゃんは
恋を知らないんだ」





私は間違っていたのではないか？

世界中の全人類を
幸せにできたとしても

球磨川だけは
救いようがないのでは
ないか？

なにより

球磨川を救おうという
気持ち自体が既に
罪深いものではないのか？

……俺達に訊くのは
卑怯だろ

俺の妹はいつから
そんな膽抜けに
なったんだ

お前の意志を
俺達の意見で翻そうと
してんじゃねーよ

まして今！

お前の
馬鹿な意見に従って
馬鹿みてーに戦ってる
馬鹿が一名いるんだぜ

あいつが
戦ってるうちは

お前は間違っても
間違いを認めちゃ
駄目なんだ!!

……確かに
大した視力だね

でも！
見えたところで
どうしようもない
ことってあるよ？

たとえば！さっき
球磨川さんのダミーを
作ったのをヒントに
思いついたんだけど――

「土を腐らせて！」

「植物を育てて!!」

『人間を
進化る!!!』

『荒廃した腐花
狂い咲きバト
ジョン』



母なる大地
から生まれる
人間植物！

タイプ 『マンドラゴラ』

!!



落葉のように舞い
枯枝のように
刺すわ！

結構イケてる
デザインでしょー

まあ
普通の人

こういうのを
気持ち悪いって
言うんだろうけど

…いや
それでもねーよ
江迎

俺はこの通り
普通の人だ

こいつらは
意外と格好良く
見えるぜ

なにそれ
お世辞のつもり？

気遣いのつもり？
やめてよね

そんなこと
言われたって

私はもう
あなたにデレたり
しないんだから！

結局
過負荷の気持ちは

わたしたち
過負荷にしか
わからないんだ！！

…そうかな

それも

それでもねーと
思うけどな

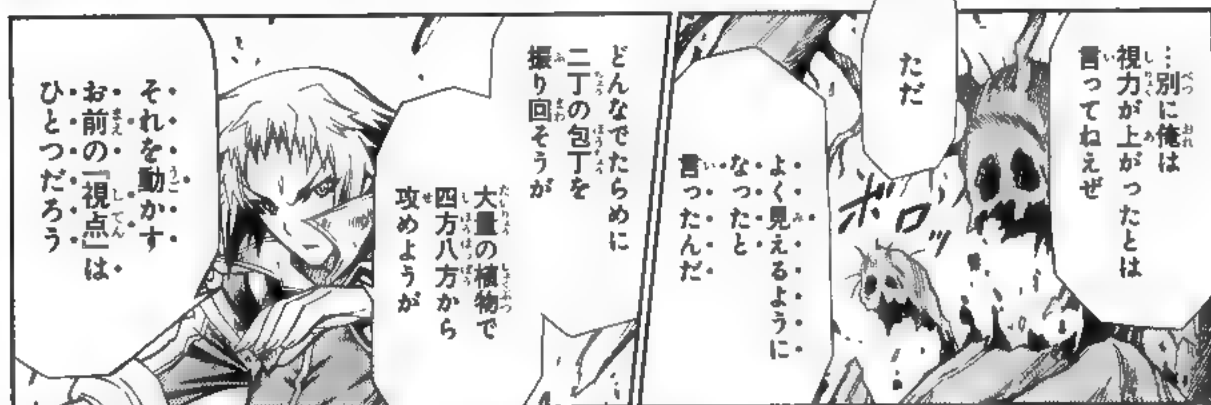
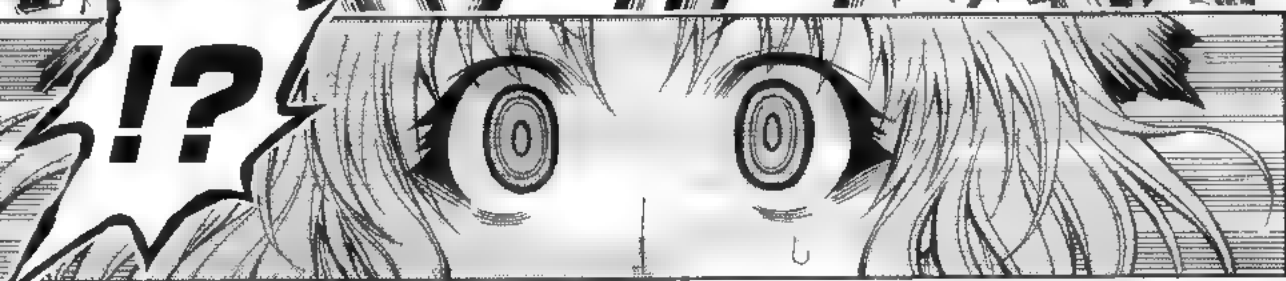
そんな風に
腐るなよ江迎

俺の目に
狂いがなければ

案外俺達は
分かり合える気が
してきたぜ

うるさい！
とにかくこれで
決着よ！

たとえどんなに
視力が上がっても！
四方八方からの攻撃
すべてに対応できる
はずがないわ！



だから
あなたには一体
何が
見えてるって
いうのよ！

……？
何を言ってるの？

ひとしくん
人吉君！

それは

お前の視界
だよ

俺に
見えているもの



「そういえば彼女は
摩訶不思議なスキルを
たくさん持ってたしてね」

「実は僕の「大嘘憑き」も
彼女からもらったスキルを
原材料に
生きたんですよ」

「で」
「彼女のスキルの中でも
特に面白かったのは
視力に関するもので」

「それは他人の視界を
乗っ取るという
荒唐無稽な神業でした」





「彼女には他人の
見ている視界が」
「他人の見ている世界が
見えたんです」

「つまり他人が何を
どんな風にどう考えて
見ているかを」

「彼女は
あますところなく
知ることができた」

「どんな気分なのか
想像すると
面白いですよね」

「彼女の顔を剥がす
僕の視界を」

「つまりは
彼女の顔を剥がす
僕の心を」

「彼女はあの時
見ていたはず
なんですから」



「どうだろう」
「僕の気持ちには
ちゃんと彼女に」

「伝わったの
かなあ……」

「……彼女彼女と
言うけれど」

その子の
名前って

教えてもらっても
いいのかしらん

「もちろん」

「隠し立てする理由は
何もありません」



「彼女の名前は
安心院なじみ」

「学校中の誰もが
親しみを込めて」

「安心院さんと
呼んでいました」



これこそ
まさにっ…

デビルアイ！

「違うよ
善吉ちゃん」

「彼女はその目を
「欲視力」と
呼んでいた」

!!
球磨川っ…

え？

彼女？

「やれやれ」
「やっぱり
その目は」

「彼女からの
レンタル
だったんだね」

「きみと彼女の接触が
明白になった以上
引き分けを狙う意味は
なくなった」

「と書きたいところだけど
やっぱり
引き分けようか」

「彼女と
善吉ちゃん」
「そして僕」

「計画的にうまく死ねば
久し振りに三人で
話せるかもしれないし！」

どんな技名を叫ぼうと……



常に土下座の姿勢なのが
マイナス……！



引き分け狙い？
なんだそりや

相変わらず
わけわかんねーな
お前は

お願いだから
一個くらい
なんかわかることを
してくれよ！

第82箱 「あんたの息子だぜ」



「善吉ちゃんには
一生僕のことは
わからないよ」

「きみもまた
めだかちゃん同様」

「恋を知らない
お子様だからね」



「……」
「ただまあ
そんなお子様が」

「彼女の目を
我が物顔で
使っているって
いうのは」

「さすがにちよつと
不愉快かな」
「な！」



すみません
球磨川さん：
私のミスです

私は本当に
失敗ばかりで

残念で……
本当に恥ずかしい
です——



「大丈夫だよ
怒江ちゃん」
安心して

「きみの失敗も」

「残念も
恥も」

第82箱

「あなたの息子だぜ」

「僕がぜーんぶ
なかつたことに
してあげるから！」



「なあに
心配いらないよ」

「確かに
あの「欲視力」は
脅威だけど」

「僕がかつて
その使い手から
顔を剥がした
ことがある——」



俺は許せないぜ
お母さん

この世界を
あんな目で見ている奴が
いることも知らず

今までのうのと
生きてきた自分が
許せない！



.....

「.....
なるほど」

「それじゃあきみは
人型の植物を操って
善吉ちゃんと
戦ったんだね？」



「怒江ちゃん」

はい..
でも全然
敵いませんでしたー
文字通りに
一蹴されました

人吉くんの
「欲視力」の
前に..

「人吉くんの」
「じゃないよ」
「間違えないでね」

「それにそこまで
卑下することはないよ」
「きみはいい線
いってたよ」

「人型を操る
というのは
ナイスアイディアだ」



「ところで
怒江ちゃん」



「生徒会長の
日之影空洞くんのことを
覚えてるか？」

「彼はまあ
学園最強だ——」

「マイナス十三組でも
彼に勝てるのは
飛沫ちゃんと」

「あとは例外的に
鐵々丸ちゃんくらい
だろうね」

「さてここで
問題だ」

「どうして彼は
そんなに強いんだと
思う？」

「……..
「知られざる英雄」
という

「誰にも認識できない
異常を所有して
いるからですか？」

「違うよ」
「異常は
あくまで」

「彼のただならぬ
強さの結果に
過ぎない」




「もちろん
学園の平和を
守るためとかいう」

「そんな
エモーショナルな
理由でもない」

「日之影くんの
強さの理由は
もっと単純なんだ」





『体が
大きい。』

『強さの理由に
それ以上は
ないよ』

荒廃した腐花

狂い咲きバルジヨン

タイプ『千年杉』!!



な…なんだよ
あれ…

どこの
特撮映画だよ!

でけえなんて
もんじゃねえぞ!!



俺の「凍る火柱」でも
凍らし切れねーし
燃やし尽くせねーだろう
圧倒的な巨大さ!

あんなもん
視力がどうたらで
どうにかなる
相手じゃねえぞ!



善吉っ…

人吉先生…





じよっ…
冗談じゃないわよ…

完全に
想定外だわ

まさか江迎ちゃんが
ここまでのマイナス成長を
遂げるなんて…!



お母さん

二十秒でいい

あの巨大植物を
食い止めといて
くれねーか

善吉くん?



見ろよ

さすがの江迎も
あの規模で過負荷を
発揮するのは
楽じゃねえみたいだ

余力は微塵も
残ってねえって
感じだぜ

そして引き分け狙いの
球磨川は
この先手を出さない
つもりらしい

おおかた
大方これ以上
自分が噛むことで
戦局が崩れることを
嫌ってるんだろうな

つまり今は
江迎と対話できる

たぶん
最初で最後の
チャンスなんだ

対話って…

なにそれ
めだかちゃんの
真似事？

…いや

残念ながら俺は
めだかちゃんとは違う

目に映る
すべての人間を
幸せにしようなんて
思えねーし思わねー

幸せになろうと
しない奴を

幸せにすること
なんか
できねえよ

…でもあいつは
言ったんだ

マイナス十三組の
中で

江迎だけは
確かに
言ったんだ

不気味な言葉
だったけど

不器用な言葉
だったけど

かならず
必ず幸せに
なるって

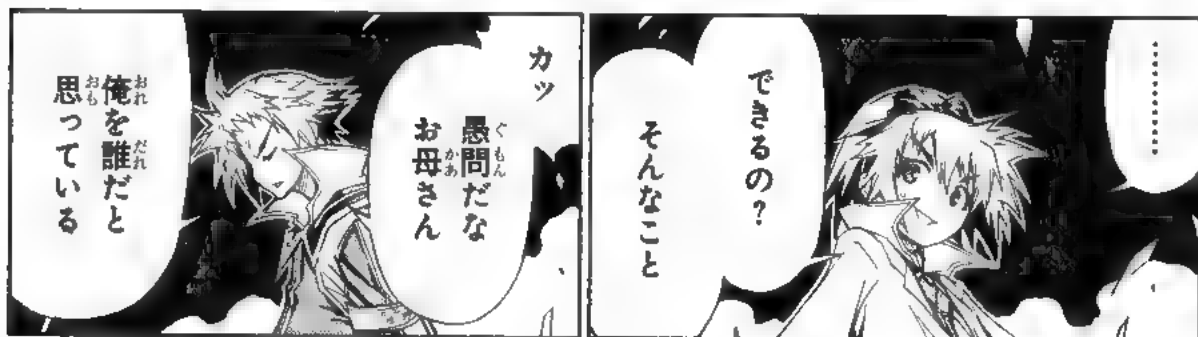
幸せになりたいって
言ったんだ！



しあわ
やっ
幸せになりたい奴が
いるなら
誰であらうと
しあわ
幸せにしてやる

それが
おれ
かんが
俺の考える

せいとかいしつこうぶ
生徒会執行部の
ありかただ!



カツ

くもん
愚問だな
お母さん

おれ
俺を誰だ
おも
思っている

できるの?

そんなこと



あんたの
息子だぜ

オーライ!

いいでしょう!
この際二十秒なんて
みみっちいことは
言わず!

Chindaiwa

十分は
持たせてあげるよ
善吉くん!

あとは
若い人同士と
いうことでええ!

年寄り!

盆栽でもして
くたびれるわ!

はっ:
矢でも鉄砲でも
チェーンソーでも
持つてきなさいよ!

私は!
球磨川さんの
ために!

全身全霊で
引き分ける!

『荒廢した
腐花』!!

『庭弄りの
守護神』!!



大丈夫っ

ぐっ...

はあっ...

まだ
いける...



...なによ
人吉くん

あっち行つてて
くれない？

あなたと
話すことなんて
何もないんだけど☆

俺ん家の庭に

一本の古い
桜の木があるんだ



俺はちっちゃな頃
春が来る度に
その木の下で行われる
花見を楽しみにしていた

しかしその木も
いつからか花をつけなく
なってる

お母さんでも
どうしようも
なかったのかな
—
今じゃすっかり
立ち枯れちゃったよ

幹だけになった
その桜を見るたびに
俺は悲しい
気持ちになる



だけど
お前なら
もう一度

あの桜を
咲かせることが
できるかもしれない

わかるか？
江迎

お前が過負荷と
呼ぶその才能は

そうやって
使うことも
できるんだぜ



お前が
そんな風に
自分の才能を
使ってくれと

俺は
とても嬉しい

そんな
お前^{まえ}となら

俺^{おれ}は

ともだち
友達に
なりたく
思^{おも}う



…やめてよ

私^{わたし}に手^てを
差し伸^のべたり
しないだよ

そんなことをしても
無^む駄^だなんだよ…

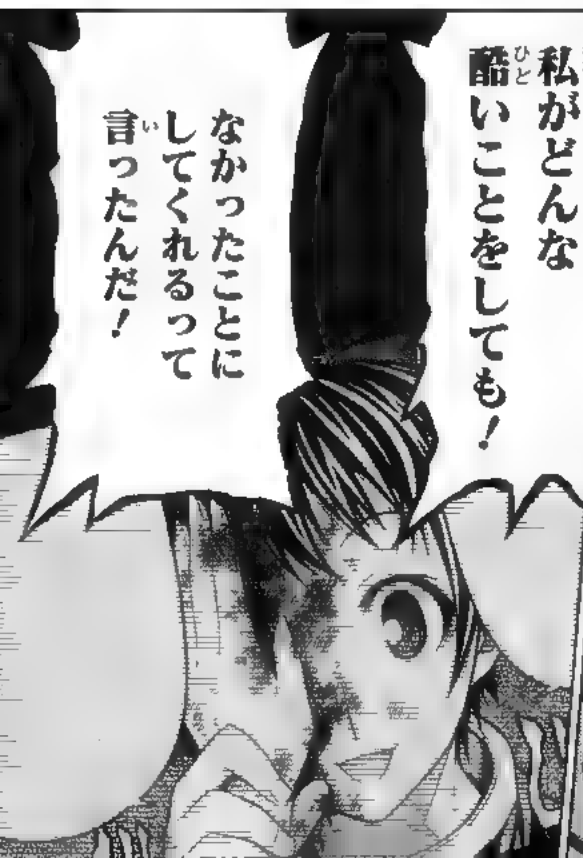


球^く磨^ま川^{がわ}さんは
手^てを差^さし伸^のべてくれた
だけじゃない!

私^{わたし}の手^てを取^とって
くれたんだ!

私^{わたし}がどん
な酷^{ひど}いことをしても!

なかったことに
してくれるつて
言ったんだ!



俺は！
おれ

お前がどんな
まえ
酷いことをしても！
ひど

それを
なかったことに
なんかしない！

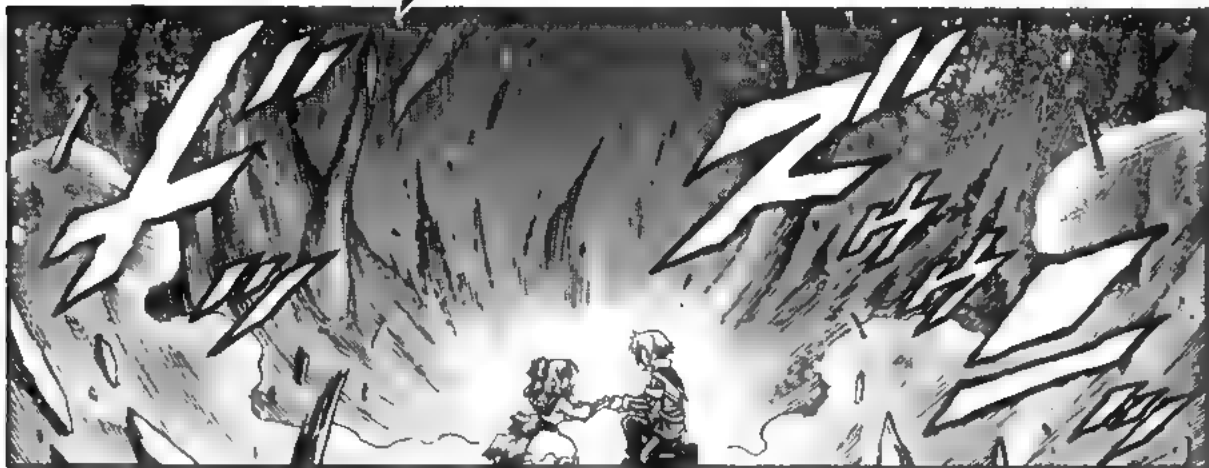
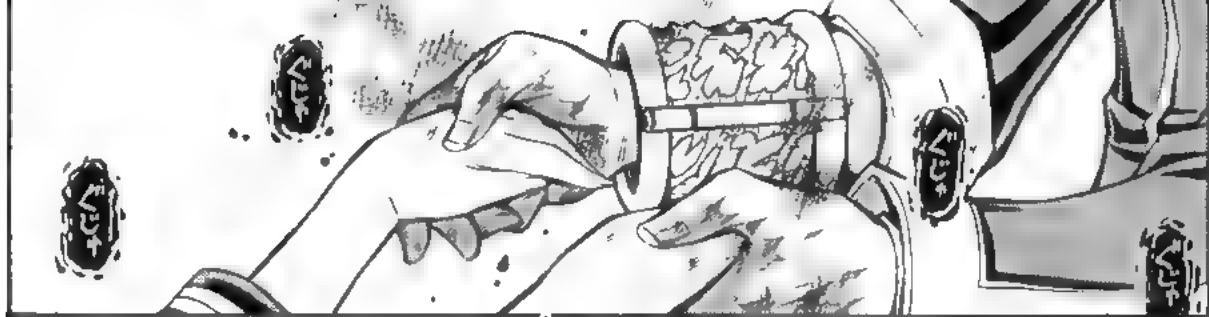


俺は今ここに
おれ いま
いる
お前を！
まえ

いないみたいには
マイナス あつか
扱わない！

だから
まえ
お前も！

自分を
じぶん
駄目みたい
マイナス
に
言わないでくれ！
い





怒江ちゃん

十三年前にも
そう言ったはずだよ



いいわけ

ないでしょ



…先生

瞳先生…

私…
幸せになっても
いいんですか…?

当たり前よ

あなたみたいな子を
幸せにするために

私は心療外科医を
やっていたんだから



悩みごとが
あるのなら

目安箱に
投書しろ！



そして
お前みたいな奴を
幸せにするために

俺達は生徒会を
やっているんだ

二十四時間^{じかん}
三百六十五日^{いちにち}！

俺^{おれ}達^{たち}は
誰^{だれ}からの相談^{そうだん}でも
受け^うけつける！！





くまがわ
球磨川くん!?

いきなり
何を!?

[.....]

『善吉ちゃんの手敗』

「と」

『怒江ちゃんの過負荷をなかつたことにしました。』

『怒江ちゃんは今もう普通の女の子です』

『どうか一組あたりで引き取ってあげてください』

……………
どういうつもり？

あなた引き分け狙いじゃなかつたの？

「…やだなあ
人吉先生」

「人を助ける理由なんて」

「気に入らないから」
で十分でしょう」

『過負荷を過負荷でなくすなんてこんな簡単なことだって』

「僕は善吉ちゃんに教えてあげたかっただけです」

あらら

何かと思えば
負け惜しみ？

なんだかなー！
球磨川くんから
そーゆー台詞は
聞きたくなかつたなー！



まあそれでも
お礼は言っておくわ

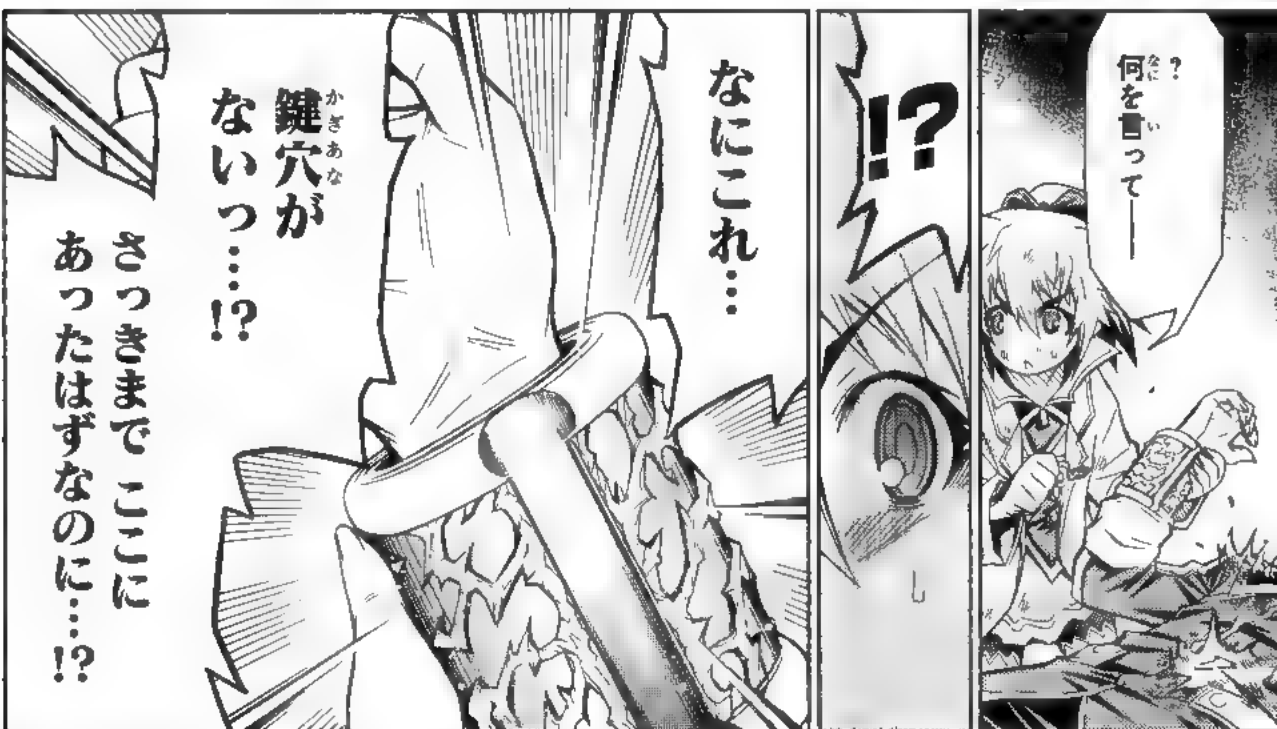
タイムリミット
ぎりぎりにな
なっちゃったけど
これで普吉くんから
爆弾を外せる

会計戦は
私達の勝利ね！



「……」
「さて
どうでしょう」

「僕は別に
引き分け狙いを
諦めたわけでは
ありませんが……」



？
何を言っ
て……

!?

なにこれ……

かざあな
鍵穴が
ないっ……!?

さっきまでここに
あったはずなのに……!?



「鍵の破壊は
反則負けに
なるそうなので」

「鍵穴の方を
な・か・つ・た・こ・と・に
し・ま・し・た」

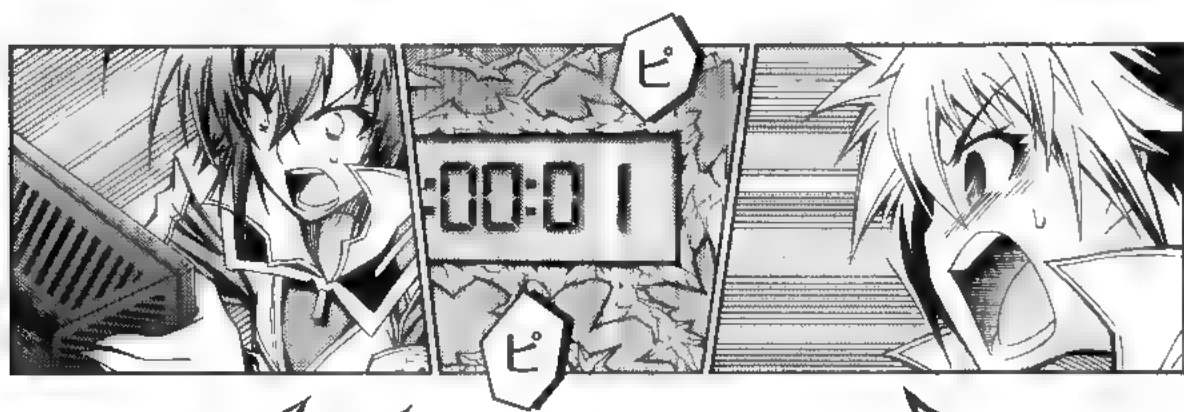
「もちろん
■の手錠からも
既に鍵穴は
消しています」

「ですから時間内に
爆弾を止める手立ては
もうありません」

「これでこの会計戦！
引き分け以外の決着は
なくなりました」

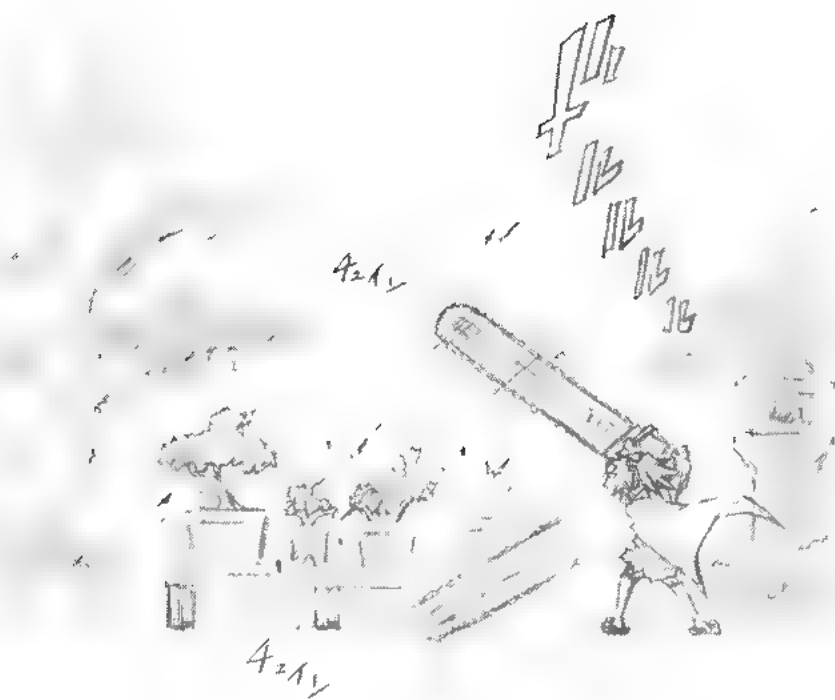
「あ」

「それではみなさん
ご唱和ください——」



『It's』

オール
フィク
ション
『All Fiction!!』



チェーンソーで盆栽。

時限爆弾内蔵式
ブレスレット
「いばら姫」

この腕輪の内部に
仕込まれている火薬自体は
ごく少量で

手榴弾などと同じく
爆風ではなく
飛び散るそれ自体の
破片によって対象の殺傷を
目論む作りとなっている

書記戦で使用された
手錠と同じく
風紀委員会からの
提供品である

しかし
それはつまり
裏を返せば

破片を飛び散らせさえ
しなければ
この爆弾の威力は知れている
ということでもある

そう
たとえば

爆発する
直前に

ブレスレットを全身で
包み込むように
すれば――



『う』

『うわあああああ
あああああっ!!』

『怒江ちゃん!?』

第83箱

『仲間思いな男なんですよ』

「な
なんだ!」

「さっぱり
わからない!」

「一体なにが
起こったんだ!」

「……
信じられないことが
起こったのよ」

球磨川くん

「あなたみたいなのは
特に信じられない
ことがね」



…黒神

今の江迎の動き

見えたか？

…ええ
かろうじて

しかし
信じられません

爆弾攻撃なら
私も雲仙二年生から
喰らい対処したことが
ありますが

その私でもあそこまで
思い切った行動は
取れないでしょう

タイマーが
ゼロになる瞬間に
意識をとり戻したのか

あるいは
無意識の内
だったのか

彼女は
善吉と球磨川の
プレスレットに
手を伸ばしました

全体を腐らせると
暴発の危険があるため
次に彼女はプレスレットの
施設部分のみを腐らせ

ふたりから爆弾を
奪い取ったのです

最後に
その爆弾を抱き込み
地面と自分で
サンドイッチに
することで

破片を一片たりとも
周囲に飛ばしませんでした

むろん
腹部へのダメージは
まぬがれませんが

あれなら
あの状況でも
誰も死なずに済む――



恐れ
入りました

彼女の
勇氣に

私は心からの
称賛を送ります！



しかし
解せねえぜ

江迎の過負荷は
球磨川になかったことに
されたんじゃないか…？



「……………」



「荒廃した腐花」は
私が昔から付き合ってきた
過負荷です

いくら
球磨川さんでも

なかったことには
できません！

喋っちゃ駄目だよ
江迎ちゃん

…いや

やっぱりそのまま
喋り続けて

意識を
しっかり持つて！



週刊少年ジャンプを
読んでるんじゃない
あるまいし

どうせ死んでも
生き返るとか

命をそんな風には
考えられませんよ

今までありがとう
ございました
球磨川さん

どういう意図が
あったとしても
あなたが私に
優しくしてくれた
ことは忘れません

これからの私は
生きることと

生かすことに
腐心します

……!!

……そりや
人吉と心中したいって
いう謎の思惑が外れて
ショックなのは
わかるけどよ

だとしても
取り乱しすぎじゃ
ねーかあいつ?

球磨川の旦那
らしくもねえ



仲間思い……？

なんだよ
それ

それこそ球磨川の旦那に
いちばんにあ
一番似合わない
キャラ設定だろうよ



あれで結構
仲間思いな男
なんですよ

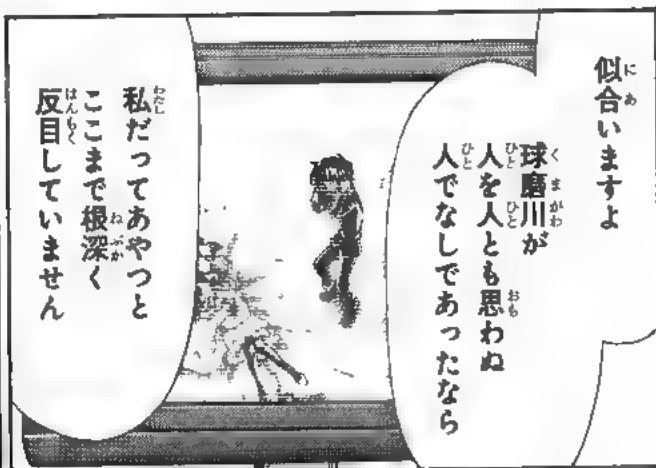
球磨川は



実際、中学時代
私とあやつが
対立する契機に
なったのも

当時、球磨川の
右腕だった
阿久根書記を

私が改心させた
ことですからね



似合いますよ

球磨川が
人を人とも思わぬ
人でなしであったなら

私だってあやつと
ここまで根深く
反目していません



好きな相手と
一緒に駄目になる

愛する人と
一緒に墮落する

気に入った者と
一緒に破滅を選ぶ

それが球磨川諫の
強固過ぎる
仲間意識です



ですから、江迎同級生の
離反は思惑を外した
こと以上に

我々の想像以上に
球磨川にとっては
ショックなのです

まして
「大嘘つき」さえ
通じない——
過負荷を維持したままでの
改心なのです



あそこまで
狼狽しては
いなかった

阿久根書記が
あやつの下を
離れた時も



…もつとも
しかし

それを知っている
私の目にも
あの取り乱しうは
やや異様に映ります



氣付かぬ内に
我々は

球磨川の中の
踏んではいけない
地雷を踏み

球磨川の中の
触れてはならない
闇に触れてしまったの
かもしれません――



『どいてください
人吉先生』

『怒江ちゃんの
そのダメージを』

『僕がなかったことに
しますから』

遠慮させてください
球磨川さん

このダメージは
私の誇りです

なかったことには
しないでください

『…違う』
『それはただの
怪我だ』
『ただの火傷と
裂傷だ』

『そしてきみの言うことは
ただの奇麗ごとだよ』

いいじゃねえか
綺麗ごと

それとも
お前は

汚いのが
好きなのかよ

「!」

「善吉
ちゃん…」

違うよな

お前は俺の知る
誰より

めだかちゃんより
綺麗好きな

潔癖症だよ

「……………」

「…長者原くん
今すぐ」

保健委員会に
連絡を入れてほしい」

「そして
見ての通り
試合終了だ」

「さっさとこの会計戦を
締めておくれよ」

…ふむ

球磨川さまが
そう言われるので
あれば

プレスレットから
鍵穴を「なかつたことにした」
川さまの行為は
特にルールに抵触しないため
反則とはなりません

鍵を使わずにプレスレットを
外した江迎さまの行為は
——まあ判断の分かれる
ところではありましようが

あくまで
人吉さまと球磨川さまの
ダメージを肩代わりした
のみと見做し

本人が大怪我を
したことで差し引いて
不問と致しましょう

つまり 本会計戦は
規定により
これにて引き分け！

よって 現生徒会と
新生徒会による
生徒会戦争は

ただいま
一勝一敗一分と
相成りました
ございます！！

「……
人吉先生」

「デートの約束は
破ってくれていいです」



「その代わり 怒江ちゃんに
最高の医者」と
最高の治療を
約束してください」

言われるまでも
ないわ

私の質問の答は
次の機会に聞かせて
もらうわね

「ありがとうございます
ございます」
「そして
善吉ちゃん」

「怒江ちゃんを
よろしく頼むよ」

「もしも 怒江ちゃんが
僕のところへ
帰ってくるような
ことがあれば」

「きみを
僕の
ディナーに招く。」

「それは
言われるまでも
あったぜ」

まあ

頼まれてやるよ

「相変わらず
いいも悪いも
ごちゃ混ぜにした
台無しな台詞——
ではあるけれど」

「そもそも以前までの
球磨川くんだったら
怒江ちゃんの傷だって
問答無用で戻して
いたはずよね」

「触れてはならない間
——か」

そんなことは
ありえねえと思っていたが

「この戦争戦を通じて
球磨川の旦那も
何か変わりつつ
あるのかもな……」



つーか
長者原くん!
一勝一敗一分つつて
よー

残りの
副会長戦と会長戦が
互角に終わった場合は
どうするんだ!?

ほら最終的に
二勝二敗一分とか
一勝一敗三分とかに
なった場合はよー

やつば
延長戦か?

ええ
丁度今からそれについて
説明しようと思っていた
ところです

結論から申しますと
名瀬さま
ご心配には
及びません

生徒会戦争は
如何なるケースにおいても
延長戦が行われることは
ございません

何故なら
生徒会戦争が
互角の戦績で
終わった場合は

挑戦者サイドである
新生徒会の勝利と
判断されるからに
ございます

これは前にも
申し上げましたが
君臨すべき生徒会には
圧勝の義務が
課されております

ゆえに現生徒会は
新生徒会と互角の戦いをした
時点で資格なしと
判断されるのでございます

!?



なんだよそれ…

だったらこの会計戦！
引き分けたつっても
実際は負けたみてーな
もんじゃねーか…!!

三勝一敗二分——もしくは
二勝一敗二分じゃねえと
勝ち抜けることができねえ…

つまり俺達にはもう
負けが許されない!!

ヤベーぞ
黒神!

こっちはまだ
副会長戦に誰が出るかも
決め切れて
ねえのに…

って
いねえし!

そ

ふむ

とは言え
球磨川の「大嘘憑き」が
まるで効果がなかった
わけではないらしいな

こうして触つても平気な
ところを見ると
強弱のみならず
入切がつけられるように
なつたみたいではないか

…黒神

さん

こうして話すのは
初めてだな
江迎同級生

しかし私は既に
貴様を十年來の
友人のように
感じているぞ

その怪我が治つたら
すぐに生徒会室を
訪ねてくれ



在学中に
箱庭学園一面に
花を咲かせるのが
私の夢なのだ

万難を排して
協力して欲しい

私達には
貴様の力が
必要だ



...どうかな

私の怪我が
治る頃

あなたが生徒会長を
やっているとは
限らないと思うけど...

限る。

貴様の勇気は
私の歩む道に
希望を与えてくれた

貴様のような
生徒がいるなら
貴様のような
生徒がいるから

生徒会長は
やめられん!



.....

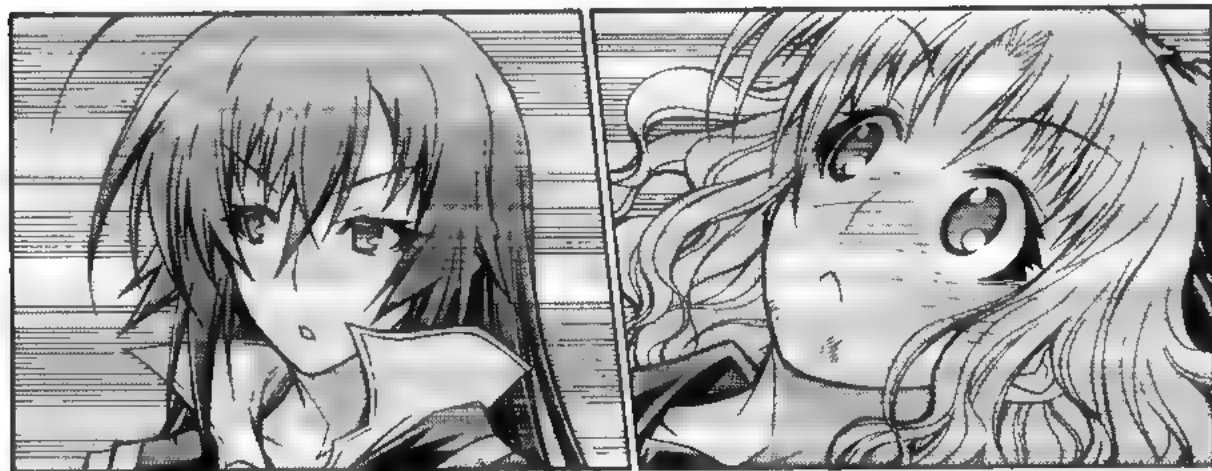
そうだぜ
江迎

それに
考えてみればお前の
「荒廃した腐花」って

植物を操る以外にも
使い道はいっぱいあるだろ

ほら!
たとえば醗酵だって
腐敗のバリエーション
だろ?

だとすればお前
味噌とか作るの
すげー得意なんじゃねえ?



あっはっはっ
は！

それはいいな
善吉！

是非とも毎朝
作ってもらえ！

幸せな家庭を
築くがよい！

？

いや
わかったけど…

家庭？

…あれ？

なんでウケてんのよ
黒神の奴

人吉が馬鹿なこと
口走ったつてのに

ここは怒るとこ
でしょ？

……..
てゆーか私
人吉と黒神って
できてるんだと
思ってたけど

違うの？

なにせ

二歳の時から
一緒にいるからね

お互いを好き過ぎて
恋愛関係なんて
とっくに
通り過ぎちゃつてる
ところがあるわ

球磨川くんに言わせれば
それが「恋を知らない」
ってことなのかな



私はそれが
いけないとは思
わないけど

こんご
今後ふたりが
球磨川くんを
相手取るにあたつては

きっとその辺が
ネックになって
くるんでしょうね…



球磨川先輩
大丈夫ですか!

ヨロ…

そうだぜ
しつかり
してくれよ!

あんたはあたし達の
マイナス十三組の
リーダーなんだぜ!?



『いやほら』
『大陸憑き』で
虚構に』

『できない現実も
あるって
わかったからさ』



それにその間
球磨川先輩は
何を…?



『………
蛾々丸ちゃん』

『すまないけど
しばらくの間』

『マイナス十三組の
指揮権を
任されてほしい』

!?

『だから
オールフイクション
「大嘘憑き」に連なる
第二の過負荷——』

『否』

『僕の
はじまりの過負荷を
取ってくるよ』

取ってくるって…

どこにですか？

「さっき行き損った
夢の中だよ」

「彼女に預けて
あるんだ」

「ただまあ今の彼女は
意地悪でさ」

「そうそう素直には
返してくれないと
思う」

「だから時間が
かかるんだ」

「折角だから
ついでに」
「若干崩れた
僕のキャラを」

「作り直して
くるよ…」

……
わかりました

マイナス十三組の
リーダー代理

及ばずながら
務めさせて
いただきます！

話はよく聞こえねーが…

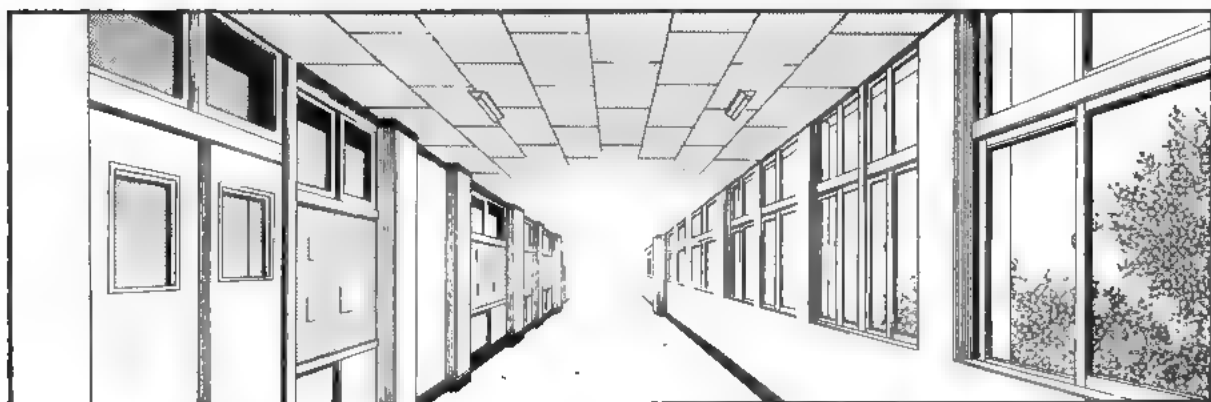
あの様子だと
球磨川は一旦
リタイアって感じかな
だとしたらついてるぜ

球磨川の指揮効果は
まさしく脅威だったからな

あいつがいないなら
残り二戦を二勝するの
もそう難しくはねえだろ

どうやら二年生の
蝶ヶ崎が代理らしいが――
球磨川に比べりゃ数段落ちるぜ

なんか大人しいし
影も薄いしな



いやー
会計戦は
引き分けかー

まあ見たえのある
バトルではあったかな？

ケツ
どこがだよ

引き分けとか！
だらしな過ぎんだろ
あいつら

オレを始めとする
風紀委員会の精鋭なら
ここで三勝目を決めて
戦争を終わりにしてる
トコだぜ――って

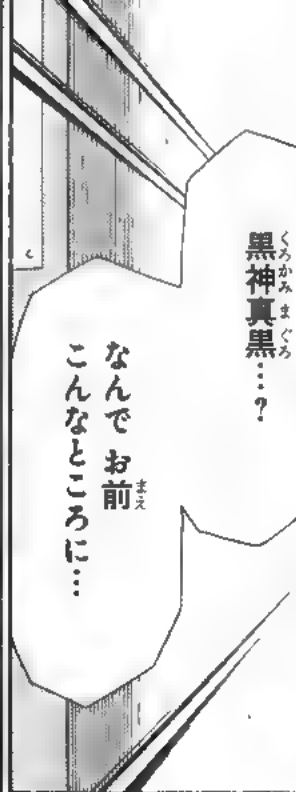
ん？





猫美ちゃんに
雲仙くんか…

!



黒神真黒…?

なんでお前
こんなところに…

!?



早くめだかちゃん達に
教えてあげなくちゃ
いけないって
いうのに……

僕達があの日
どんな風に
倒されたのかを



丁度いい……
僕を戦う会場に
連れて行ってくれ

病院のベッドで
目が覚めてすぐに
学園にきたのは
いいんだが

どこで会計戦を
やっているのか
わからなくてね



いやはや
無駄足やったなり

自分らをいてもうた
志布志ちゃんなら
先週の書記戦でもう
名瀬ちゃんがやつつけて
もとるからな



あー? テメー
そんなことのために
病院抜け出して
きたのかよ

お節介な奴だなー
アホじゃねーの?

それに
心配いらへんて
黒神くん

志布志さん……？

一体何を
言っているんだ
きみ達は……？

確かに彼女も
協力はしていたが

勝負所は彼女が
持つていつてはいたが

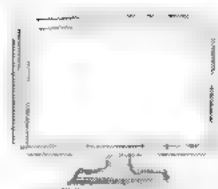
あのととき本当に
恐るべきだったのは
志布志さんじゃない！

蝶ヶ崎蛾々丸！

極めて狂暴な
あの過負荷こそが
主犯格……

僕はあの子が
球磨川くんより
怖い！！





やっちやあ、か
名瀬ちゃん

ひょっとしてあいつが
真の敵なんじゃねーの？

だい 84 箱
第84箱



「わかりあうことができたのかなあ」



それでは
お兄様

生徒会選挙も
いよいよ後半戦に
入りましたので

ここで
復習と予習をかねて
現在把握されている
状況を説明させて
いただきます



庶務戦は
決着後にいろいろ
あったとは言え

くじ姉が出馬した
書記戦でも
勝利を収めたものの

会計戦は
善吉と人吉先生の
親子タッグで
勝利に限りなく
肉薄しましたが

基本善吉の辛勝
だったと言って
よいでしょう

球磨川の思わぬ策略を
回避するために
あえて負けを選ぶこと
になりました

最後の最後で
球磨川に引き分けに
持ち込まれました

よって現在の戦績は
一勝一敗一分の五分

しかしルール上
引き分けの際は
新生徒会が当選する
システムになっており
ますので

現生徒会にはもう
一敗も許されません
——つまり

我々は崖っぷちまで
追いつめられた
形です

…それで
めだかちゃん

ここまでを
総括すると
どんな感じだい？

はい

お兄様もしてやられた
球磨川の「大嘘憑き」は
確かに脅威ではありますが

しかしどうやら
対策が皆無という
わけではなさそうです

なんというか球磨川の
おおらかでおおまかな
性格に起因する
ものでしょう

現実を虚構にする
と言つても

ムラはあるしアラもある

何より過負荷を虚構には
できないという不具合は
使用者の球磨川も知らない
特性だったようです

くじ姉はそれを
アンコントロールラブルと
表現しましたが

そもそも球磨川自身が
あの過負荷を適当にしか
使う気がないというの
もあるのだと思います

いやめだかちゃん
僕が聞いているのは
そういうことじゃ
ないよ

現実・に・過・負・荷・と
向・き・合・つ・て・み・て・
ど・ん・な・感・じ・だ・い・と
聞いているんだ

…はい

彼らはあらゆる意味で
常軌を逸しており

またどうしようもない
苦戦の連続であり

正直私はこの戦いを
楽しい戦いだとは思
いません

が

ここまでたかの戦いたたかを
経てわた私は

我々われわれは過負荷かふらと
わかり合えるあとの
結論けつろんに達たつしました

……もちろん
彼らのやったことや
やろうとしている
ことは

とても
許せることでは
ないでしょう

しかし
耐えがたきを耐え
忍びがたきを忍び
許しがたきを許すのが
私のやり方であり

また
生徒会執行部の
ありかたです

他人や敵も大切に
する
黒神めだかは
天敵さえも大切にします！

……ちなみに俺も
黒神と同じ意見だぜ

お兄ちゃん

俺はそもそも
バトル向きのキャラじゃ
ねーけどよー

そんな俺でも
志布志とどつき合っ
てみたら感じるものも
思うところもあったぜ

押しつけがましい
勝手な想像だが――
志布志の方もきっと
そうなんじゃねーかな

向き合うのも
嫌になるような
過負荷のキャラクター

しかし
向き合ってみないと
わからないことって
あるよな

むしろ誰も
向き合ってこなかった
からこそ

あいつらは
あそこまで酷いこと
になっちゃったんじや
ねーのかな

だったら
向き合って――
分かり合って
やろーじやねーか

それが
あいつらに対する
何よりの
嫌がらせだろ

…ふふっ
めだかちゃんも
くじらちゃんも

僕が入院している間に
随分成長した
みたいじゃないか

見事な結論だよ
ふたりとも

さすがは僕の
可愛い妹達だ

ふ

わ



鬼神モードと
「凍る火柱」の
コラボレーション!?

死んだんじゃ
ねーか
あの人!

…あはは
いずれにしても
マイナス十三組相手に
健闘しているみたい
じゃないか

こんな大変な時に
そばにいられず
本当に悪かったね



気にしなくても
いいですよ
真黒さんも大変
だったんでしょ?

それに真黒くんがいた
ところでどうにかなる
状況じゃなかったし

むしろ真黒さんが
いなかったからこそ
ここまでやれてるような
もんですよ

そうそう
兄貴がいなくて
本当に助かったぜ

お願いですから
今からでも病院に
帰ってくれませんか?

あれあれ? 関係が
近くなるほど
コメントが辛辣に
なっているぞ!



しかし…
冗談はともかく

冗談なんか
言ってるねーぞ

困難な道を
選んだねえ
きみ達は

過負荷と
理解し合うと
言うけれど

許しがたきを
許すと
言うけれど

しかしそれは
容易なことじゃあ
まったくないよ



何せ彼らは
生きがたきを生き

負けがたきを
負けてきた
連中なのだから――



「それじゃ
準備も
整ったし」

「そろそろ
始めようか
蠅々丸ちゃん」

はあ

しかし
球磨川先輩

これから何をする
つもりなのか
私にはまだ
つかめていないの
ですが……



「いや」

「ほらこないだ夢の中に
もうひとつの過負荷を
取りに行くって
言っただじゃない？」

「蠅々丸ちゃんには
その手伝いをして
欲しいんだ」

「具体的には
僕をきみの手で」

『ぶっ殺して
欲しい』

!?

ぶっ殺すって…
嫌ですよ
殺人なんて！

扉を折るくらいなら
まだしも！
どうして私が球磨川先輩を
手につけなくては
ならないのです！

夢の中とやらに行くのに
死ぬ必要があるなら
飛び降りるなり何なり
ご自身で自殺でもなされば
いいじゃないですか！

「嫌だよ
自殺なんて」

「超怖いじゃん」

とにかく丁寧に
お断りします

まったく何を
言い出すのかと
思えば…
おふさげも程々に
してください

ただでさえ
リーダー代理の重圧で
私の細身は押し潰され
そうだというのに…

「…んー」
「蝦々丸ちゃん
本当に理性的
だなあ」

「普通の過負荷なら
迷わず僕をおっ殺して
くれるんだけどね」

「それはきみの
マイナス
美点でも
あるけれど」

「副会長戦を
戦う上では
マイナス
欠点かなあ」

「よし」
「ここはひとつ
僕が悪役になって」

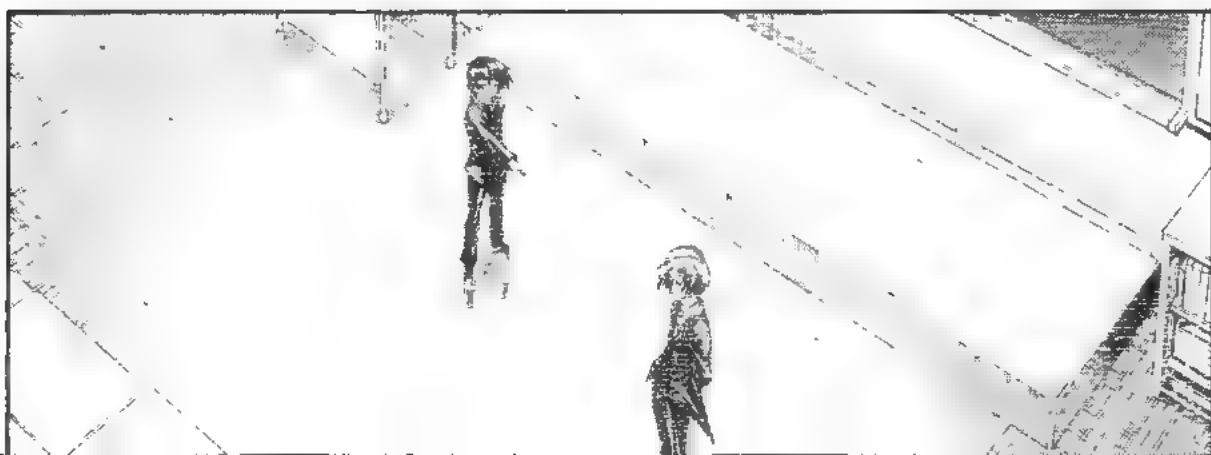
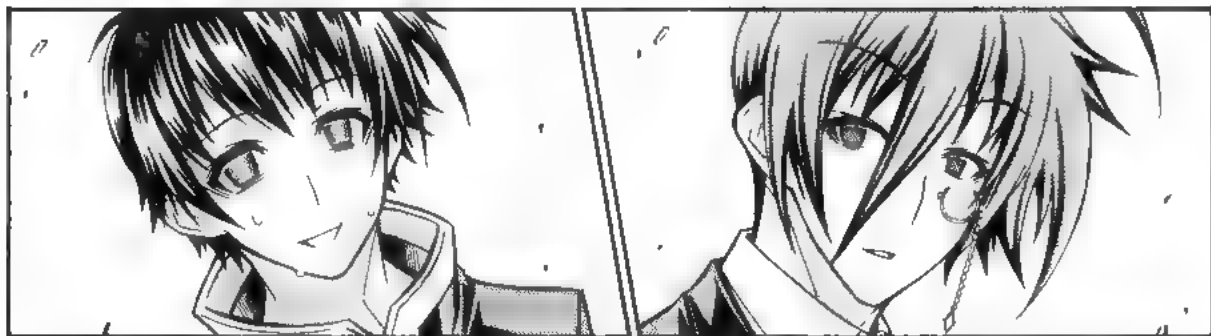
「蝦々丸ちゃんを
挑発してみようか」

挑発？

？
そんなの無駄ですよ！
たとえ何を言われた
ところで私は――

「お前まえ
なんだか」

「トランプとか
武器ぶきにして
戦たたかいそうな
顔かおだよな(笑)」



なんつ…で
そこまで!

的確に人を傷つける
台詞が言えるんだよ
お前はああああつ!!

トランプを武器に
する奴なんて
現実にいるわけ
ねーだろ!

俺が二次元と三次元の
区別もつかねー
馬鹿だつてのか!?

お前は!
俺が!

こんな侮辱を
受けたのは
初めてだ!

確実に
許さねえ!

ぶつ殺す!!

「まさに
理解不能だ」

「いいね」
「その被害妄想」

言うに事欠いて
まさかの
トランプだと!?

「とは言え
突っ立ってる相手を
殺すつてのは
気が咎めるだろうし」

「こっちから
仕掛けてあげるね
幾々丸ちゃん——」





感動したぜ

これが
理性のない
世界か



「そうだよ
蛾々丸ちゃん」
「これで次の
副会長戦」

「きみの勝利は
揺るがない」

クククッ！

礼を言うぜ
球磨川先輩

俺のためにまさか
ここまでしてくれる
とはな



「なあに
僕のためでも
あるのさ」

「今回は一週間後くらいに
生き返ると思うから
死体は掃除用具と一緒に
ロッカーにでも入れといて」

「んじゃ」

「がんばれ」

がんばる



それで問題の
副会長は
誰が出る？

真黒さんは
病院を抜け出して
きたってことでした
けれど

阿久根先輩や
喜界島は
今どんな具合
なんですか？

彼らもう
目を覚まして
いるよ

さすがアスリートは
鍛え方が違うよね

今回はそれが裏目に
出たわけだけど

ただし凶化合宿を
終えていない彼らじゃ
副会長は無理だろう
病み上がりだしね

だから
彼らには

僕の独断で
とある任務を担当
してもらっている

とある任務…

ですか？

ああ
彼らにしか
出来ない
極秘任務だ

仮にこの戦術が
会長戦まで
もつれこんだなら

その時こそ
彼らのがんばりが
生きてくる――

…お兄様
阿久根書記と
喜界島会計のことは
分かりましたが

では
日之影前会長は
どうしたのです？

あの人も
別行動ですか？

……
そうだね
それを言うのを
忘れていたよ

彼は
リタイヤだ

日の影空洞は
もう戦うことが
できない――



あひやひや

なに
真面目でんですか
日の影先輩！

なんですか
そのたくわえた
おひげは！

どこで筋肉
鍛えてきたん
です？

日の影つついか
見る影もない
ですね――

あひやひや！

不知火か

そういうお前は
相変わらず
みてーだな





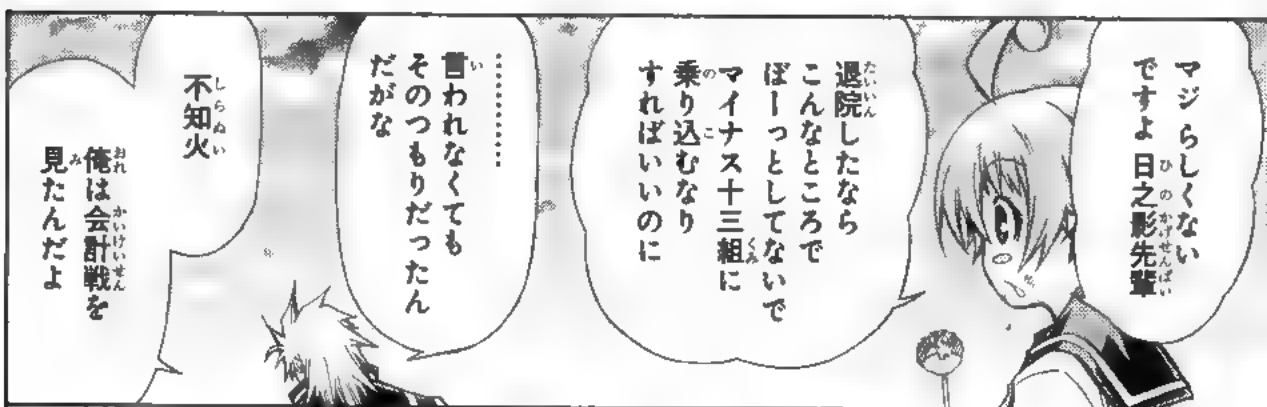
もつとも
あの時と同じで
お前が最終的に
どっちの—

つーか誰の味方を
するつもりなのかは
わかんねーけどな



敵の懐に
もぐりこんで
引っ掻き回す
とか

四月の選挙の時も
似たようなこと
してたよなあお前は



マジらしくない
ですよ日之影先輩

退院したなら
こんなところで
ぼーっとしてないで
マイナス十三組に
乗り込むなり
すればいいのに

……
言われなくても
そのつもりだったん
だがな

不知火

俺は会計戦を
見たんだよ



あいつらが過負荷と
手を取りあっている
ところを

過負荷と
わかりあっている
ところを

俺は
見てしまった



俺は生徒会長
だった頃
毎日のように
戦いに明け暮れ

色んな敵を
ぶちのめして

色んな敵を
追い出してきた

俺にとってあいつらは
終始何を考えてるか
わかんねー文字通りの
敵だったし

あいつらにとっての
俺も終始
似たり寄ったり
だったんだろう

…でも

ひよっとしたら
あいつらと俺も

あんな風（ふう）に
わかりあうことが
できたのかなあ…

あいつらは
きつともう

俺（おれ）のことなんか
思い出すことも
ないんだろうなあ…

不知火（しらぬい）
俺（おれ）は恥（は）ずかしいよ

通り一遍（とっぴへん）の知識（ちしき）で
合格（ごうかく）だの不合格（ごうごふかく）だの
黒神（くろかみ）達（たち）を採点（さいてん）した
自分が

死（し）にたいくらいに
恥（は）ずかしい

先輩（せんぱい）気（き）取り（と）で
あれこれ手（て）出し
口（くち）出したけど

結局（けつぎよく）
黒神（くろかみ）達（たち）は自力（じりき）で
困難（くわんなん）を成（な）し遂（す）げた

肝心（かんじん）の俺（おれ）はと
きたら早々（そうそう）に

過負荷（かふか）と向き合（むきあ）う
ことを投げ出（な）したって
のになあ……

…別に

今（いま）からでも
遅（おそ）くないんじや
ないですかあ？



そんな弱気じゃあ
困るんですよ
日の影先輩

そーゆー感傷とか
どーでもいいんで
ごちやごちや言わずに
戦ってください

あなたの異常性じゃ
敵わないって
言うんなら

あたしの過負荷を
貸してあげます
から

ただし取り扱いには
注意してくださいね

あたしの
『正喰者』は

酷く使い勝手が
悪いですから――

八月十五日

副会長戦
当日――

それでは
皆様

お盆の真つ只中
というこの時節に
お集まりいただき
ありがとうございます

時間になりましたので
これより生徒会戦挙
副会長戦を
執り行いたく存じます



出属されるのは
新生徒会からは
鎌ヶ崎さま

そして

現生徒会からは
黒神さまということ
でよろしいですね？



…ああ

今日は私が
戦わせてもらう

本当に
いいのかよ
めだかちゃん

ここであなたが
出ちゃったら
会長戦は…



いいも何も
他に手はあるまい

結局候補は
見つからなかったし

副会長戦を
放棄しては
負けが確定して
しまうのだから

会長戦の
ことは

まずは
ここを勝ってから
考えよう—



おいおい

それじゃあ
問題を先送り
しただけじゃ
ねえかよ黒神

それにお前は
生徒会長
なんだろう？

だったら
会長戦以外には
出ちゃあ
駄目だぜ

だからここは
引退したジジイに
任せとけ

俺が
戦ってやる

いよう久し振り
蝶ヶ崎くん

わかりあい
に
来たぜ

誰？

球磨川桜の
正体不明にイラとする
台詞シリーズ①

ドン



曰お前 四天王で言えば
三番目に登場しそうな
風格があるよな(笑)

ひと
を
く
る
時
の
コツは

あいて
を
人
だ
と
思
わ
な
い
こ
と
だ

ひと
を
く
る
時
に
は
も
ち
ろ
ん

どろ
ろ
を
歩
く
よ
う
に
踏
み
し
め
ろ

…ケツ

わ
か
っ
た
よ
テ
メ
ー
の
勝
ち
だ
日
之
影

さ
っ
さ
と
ど
め
を
刺
し
や
が
れ

だ
が
覚
え
て
お
け
！
い
や
俺
の
方
こ
そ
こ
の
屈
辱
を
忘
れ
ね
え
！

て
め
ー
に
復
讐
す
る
た
め
に
！

絶
対
に
い
つ
か
こ
の
学
園
に
帰
っ
て
き
て
や
る
か
ら
な
！！

無
理
だ
よ

ど
う
せ
お
前
も
す
ぐ
に
俺
の
こ
と
な
ん
か
忘
れ
ち
ま
う

あ
の
頃
の
俺
は
一
生
徒
会
長
と
し
て
毎
日
の
よ
う
に
戦
っ
て
い
た

学
園
の
平
和
を
守
る
た
め
に
学
園
の
敵
と
戦
っ
て
い
た

も
ち
ろ
ん
そ
ん
な
役
目
を
他
の
生
徒
に
任
せ
ら
れ
る
は
ず
も
な
い
か
ら

当
然
の
よ
う
に
来
期
も
自
分
が
生
徒
会
長
を
務
め
る
つ
も
り
だ
っ
た

やめろ。

それ以上の
暴力は
私が許さん

そんな
四月である

俺が
無神めだかに
出会ったのは

第85箱

「私はずっと楽しみにしていました」



ひのかげせんぱい
日の影先輩……？

あれ？でもなんか
雰囲気違くないか？

ひどく静かで
落ち着いて
いるのに

あの
圧倒的な
存在感……

つか
あの雰囲気

なんかどっかで
見覚えがある
ような気も――

……
見覚えがあるとするなら
めだかちゃんの
改神モードだろうね

いやあれは
改神モードの
更に先と
言うべきかな

しかし
解せない

そもそも
日の影くんには

あの状態になること自体が
できないはずだけど――

そういうわけで
副会長戦には
俺が出るぜ
長者原くん

先代の生徒会長には
出場資格がない
なんてことは
ないはずだよな？

はあ

まあ確かに
問題はないと
思いますが一

おおつと！
ちよお~~~~つと
待つてくださいよお
選挙管理委員会
副委員長の
長者原くん！

そういうことは
ちやあああああんと
上のかたに確認したほうが
いいんじゃないですかあ？

……そうですね
ではやはり確認を
取りましょう

その間に蝶々崎さまは
選ぶカードを
決めておいてください

万が一にも
出場資格がない
なんてことになったら
オオゴトですからねえ~~~~

野郎……嫌がらせ
みてーないちやもん
つけやがって……

つーか
あいつはあいつで
キララ激変して
ねーか？

構わねーよー
そんなことより
黒神

お前に先に
聞くべきだったな

副会長戦……
俺が出て
構わないか？

構うも
構わないも
ありません

私がこの瞬間を
どれほど心待ちに
していたことでしょう



こうして
あなたと一緒に
戦える日を

わたし
私はずっと
楽しみに
していました



ひとし
人知れず
ひとり戦争
あなたではなく

われわれ
我々の裏方に徹する
あなたでもない

おもひ
表舞台で
手を取りあえる
あなたにこそ！

わたし
私は助けを
求めたのです



は
そーいや昔から
そんなこと
言ってたっけな

お前は

おも
思い出すぜ
黒神

お前と
初めて会った
あの日のことを――



最初に出会った日から
三日三晩連続で
俺と黒神は殴り合った

そしてその件だけでは
終わらなかった

次の日も
その次の日も
ことあるごとに

俺と黒神は
顔を合わせるたびに
殴り合ったのだった



もちろん
俺の方から
結んだことは
ない

俺が「学園の敵」に
とどめをさそう
という段階になると

決まって黒神が
割り込んできて

俺の邪魔を
するのである

…黒神

なんでお前
あいつらを
守ろうとするんだ

お前はあいつらとは
違うだろう

なのにどうして
あいつらの
味方をする

…悪い奴を
差別する人間は

次に弱い奴を
差別する

続いて愚かな奴を
差別して

更には強い奴を
差別する

そして
最後に

自分自身を
特別な存在だと
差別する

善意の中にある
悪意

そういうのが
嫌いなんだよ

私は

.....
わかんねえよ

たとえば
あの日前が
守ろうとした生徒は
更生の余地なんて
微塵もねえ札付きだ

あいつに暴力を
振るわれた生徒は
数知れないし

学校設備も
随分壊されてる

まるで他人に迷惑を
かけるために
生まれてきたような
男だぜ

そんな奴を救うことに
何の意味があるんだ？

.....

たとえばあの日
貴様が追い出そうとした
生徒には

病弱な妹がいて—
彼女のために
強くなければと
思っている

両親から虐待を
受けたせいで
人との距離感が
わからないだけで

心の中では
人に優しく
しなければと

人に優しくしたいと
思っている

.....
そんな話は
初めて聞くが

本当か？

いや知らん

そうかもしれんと
言うだけだ

ふぎけんな！
なんだそりゃ！？

さてはお前
俺に逆らいたい
だけじゃねーのか！？

俺が被害者の味方を
するから
自分は加害者の味方を
するっつーかよお！！

まあ
少し違うが
ある意味そうだな

あ！？

だって
貴様が
被害者を守り

私が
加害者を守れば

我々は
全てを守れるの
だから

……
そこまで
無防備に

そこまで
まっすぐに
人間を信頼した
言葉を

生まれて初めて
俺は聞いた

黒神は
毎日のように俺と
殴り合いながら

俺を敵ではなく
同志だと信じていた

俺は黒神を
人とは思わず
殴っていたのに

黒神は俺を
人と思いつつながら
殴っていたのだ

「知られざる英雄」
である俺を黒神が
見つけられた理由

それを理解した
瞬間

俺は引退を
決意した

黒神

お前まえ

生徒会長に
ならないか?

あの時の
お前の言葉が
いよいよ実現
するってわけか

俺にお前みたいなことが
できるかどうかは
わかんねーけどな

あなたが私のようである
必要はありません

あなたは

あなたのようで
あればいい

たしかにいんちう
大刀洗委員長に
確認が取れました

ふれ、

ひのかけ
日之影さまには
問題なく戦挙に
参加して
いただけます

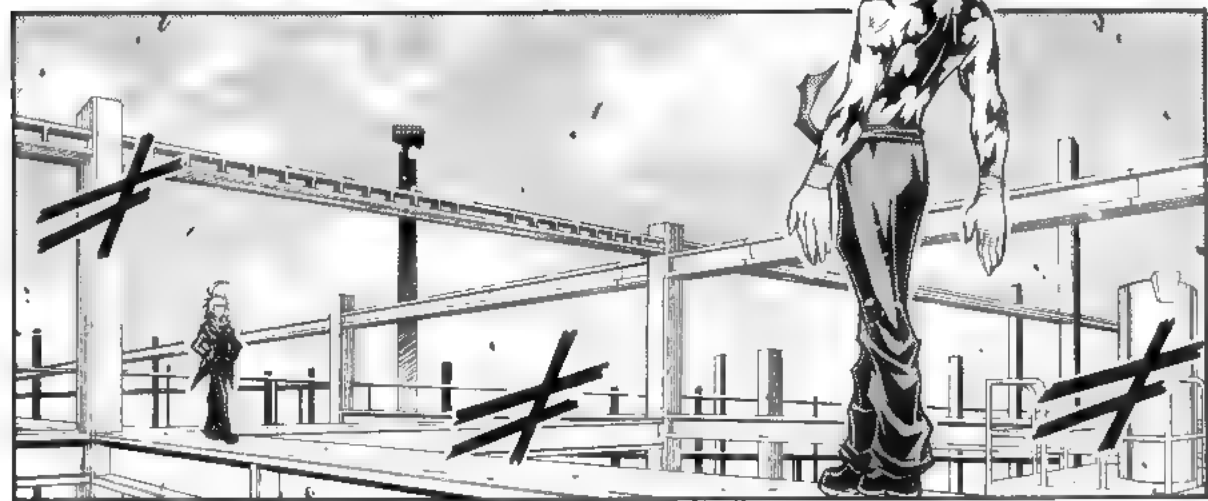
ですので
早速

みなさま
皆様を
副会長戦の会場へと
ご案内したいと
思います



蝶ヶ崎さまが
選ばれた
『戌』の試合形式

『狂犬落とし』で
ございます



ご覧の通り
建設中の校舎が
今回の舞台と
なります

ルールは単純明快
——
相手を地面に
突き落としたりした方の
勝ちでございます

もちろん参加者の
安全を第一に考え
セーフティネットを
張っておりますが

そのセーフティネットは
当然地面の一部と
見なされますので
ご注意ください

へっ
ルールなんて
なんであろうと
関係ないぜ

日の影先輩が
出るって時点で
俺達の勝ち
確定してんだからよ！

……よくそんな
楽観的で
いられるな

お前

あたしと織々丸は
五歳からの付き合い
なんだけどよ！

なんであたしが別に
気の合うわけでもねー
あいつと

物別れになることなく
十年間もつるんでるのか
教えてやろうか？

死にたく
ねえからだよ





あ！

まずいぞ
人吉！

鉄骨の上っつー
このステージは
とてもまずい！！

つーか
江迎の時と
違って！

これはたぶん
偶然じゃねえ…



そうですよお
名瀬さん！

あなたを見習って
私もあらかじめ
予習してきたんです
よおおおおお！

ですから
日之影先輩が
相手と知り

自分に有利なステージを
選ばせていただきました！！



とっ…

どういふこと
なんですか
名瀬師匠！

突き落とせば
勝ちなんてルール
むしろ日之影先輩には
向いてるくらいじゃ
ないですか……！！

…足場が

まとも
だったらな…！

ギリッ

学園最強ともいえる
日之影先輩の強度は
あの身体の大きさに
基づいている

しかし身体が大きいって
ことは体重はより
重いつてことで

つまり
バランスが悪いって
ことなんだ

あんな細い
鉄骨の上なんて

たぶん
立ってるのが
やっただぜ！

より重い……？

バランスが悪いって
どういう意味です？

身長が倍になれば
体重は倍じや
きかねーんだよ！

算数の時間
何やってたんだ
お前は！

しかも
体重が重いと
落下したときの
ダメージもでかい

日之影先輩の強度を
封じるために
あるようなルールだぜ
これは……

そういうことです
——悪く思わないで
くださいよお
日之影先輩！

貧弱な私が
あなたに勝つには
こうする他ないんです
からねえ~~~~

……
蝶ヶ崎くん

鉄の塊である
飛行機が
どうして空を飛べるか
知ってるかい？

は？





がっ…

はっ……!?

………
矛盾することを
言うようだが

飛行機は
飛んでいるから
飛べるんだよ

蝶ヶ崎くん

おおよそ
大きさも
重さも
関係ない

高速で動く
物体は

決して
落下しないんだ

!?

見えなかった…!
気がついてたら
殴られていた!

ぐっ…

いや確かに日之影先輩の
「知られざる英雄」は
認識できないという
異常性だと言いますが…
しかし今のは!

今のって…
まさか

めだかちゃんの
黒神ファントム…?



そうだね
だからあれは

「ち・や・んとした
黒神フアントム」

いやー
黒神フアントムは
言ってしまえば
自爆技だ

使えば自分だって
ただじゃ済まねえ

しかしどうやら
日の影先輩に
ダメージはないー

黒神
俺の戦いを
よく見ておけ

会長戦で
お前がお前らしく
戦うための

参考になる
はずだぜ

誰にも見えない
日の光と化し

影も残さず
静かに翔ける

その通り

くっ……
正に失笑ですね！
よく見ておけも
何もー

結局 あなたは
見えないんじゃないですか！

それがこの
日の影空洞の
あら
新たな異常性

テ
ー
マ
ソ
ン
グ
光化静翔だ



.....
騙ってろ

それがあなたの
鎮魂歌です



「ところで

委員長は今

何をされてましたか？」

ふーっ

寝てた

起こすな、と
怒られたよ



日の影空洞の
新たな異常性
「光化静翔」

「大きくて重く」
「堅い」ものが
高速——否

光速で
駆動する

その脅威を
理解しない者は
この場には一人も
いなかった

第86箱 「不慮の事故ですから」

学園最強の名に
恥じない
この先代の生徒会長に
仮に弱点があるとすれば

それは
その巨軀に由来する
動作性の鈍さだろうと
誰もが思っていたのだから

その弱点がまるで
鬼に喰われたかのごとく
雲散霧消した今

文字通り
目にも止まらぬ彼を

文字通り
止めることなど
誰にもできない

だから
勝負を見守る
全員が

公平で中立な
立ち位置にあるはずの
選挙管理委員会まで
含めた全員が

この時点で既に
日の影空洞の勝ちを
確信したのだった



そう

ただひとり

志布志飛沫を
除いては

だい はこ ふ り ょ じ こ
第86箱 「不慮の事故ですから」



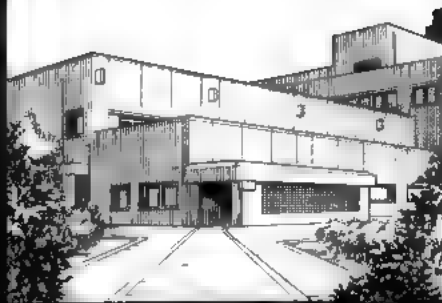
「大きくて」
「堅く」
そのうえ「速い」

「すごいっすね(笑)」
「いやいやマジで」

「だけどどーして
学習しねーのかなあ」
「駄目なんだって
そーゆーのじゃ」

「そーゆー
長所みたいなのは
過負荷には
通じないんだって」

「特に」
「甥々丸くんには絶対に
通じないんだってば」



「蝶ヶ崎蛾々丸つつー
「絶対」の存在をよ——」

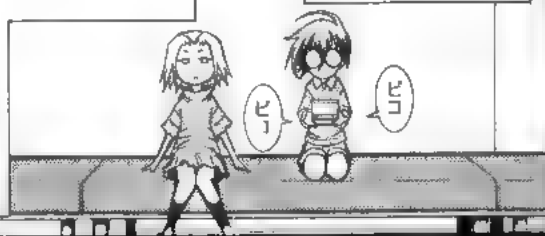
「まったく
「この世に絶対はない」とか
したり顔でほざいている奴には
教えてやりたいぜ」



志布志飛沫が
初めて蝶ヶ崎蛾々丸に
出会ったのは
五歳の頃である

それは自身に発現した
「致死武器」という
過負荷を検査するために
通っていた

病院の待合室での
出会いだった



もつとも
この時彼女には
「出会った」などという
積極的な認識はない

あくまで「彼」とは
病院の待合室で
たまたま隣り合わせた
だけなのだから



ピコ

ビコ



わかりました
すみません

はあ



に



おい

ビコビコ

うるせーぞお前

音切れよ
音！

!?

そのスカした態度が
気に入らないという
理由で彼女は

野球少女ゆえに
たまたま持ち歩いてた
釘バットで蝶ヶ崎少年の
頭部を殴打した





光化静翔^{デーマソング}

フルコーラス!!



……どうだよ
黒神^{くろかみ}

日之影先輩の
光化静翔

てめーの
黒神ファントムと
較べてみて

黒神ファントムで
あんな複雑な動きを
したら死にますね

日之影前会長は
参考にしろと
仰いましたが

レベルが違いすぎて
あれは参考にはしょうが
ありません



そうだねー
そして
僕としては

日之影くんが
一体どんな代償を
払って

あの異常性を
獲得したのかの方が
気になるかなー



宇宙最強ぶときが
どうして

この『不慮の事故』を
屈服させうと思うのかね

…？
どうしてポケットに
手を入れた？

何か武器でも
隠しているのか？

別に

負ける時は
潔く負けて

勝つ時は
態度悪く勝つのが
私の主義なのですよ

ま
マイナス
過負荷がゆえに
勝ったことなんてほとんど
ありませんけれど

ね

…ふん

しかし俺は別に
お前を屈服させよう
なんて気はねえよ
最初に言っただろ？

俺は過負荷と
わかり合いにきたんだ

だからわかんねーとか
簡単に言うなよ

わかり合いに
きた

ねえ？

他人事ながら
正気の沙汰とは思え
ませんね

もしも江迎さんを
改心させたことで
調子づいているので
あれば

あれは
たまたまのことだと
思い直した方が
いいですよ

大体改心は
あなたがたの
手柄じゃない

「物体を腐らせる能力」を
「植物を育てる能力」に
進化したのは
球磨川先輩ですし

最終的に「荒廃した腐花」を
コントロールアブルにしたのは
「大嘘つき」じゃないですか

…それでも

江迎の心を
変えたのは
黒神達だし

変わったのは
江迎自身だろう

はは！
苦しい解釈ですね

まあ確かに
江迎さんの過負荷は
究極的には両腕を
切り落とせば無効化できる
代物ですから

手柄のすべてが
球磨川先輩にあると
するのもおかしな話
かも知れません

しかし
志布志さんの「致死武器」——
あるいは
球磨川先輩の「大嘘憑き」
のように

その内心に密接に
絡みついた過負荷は
どう処理します？

それ系の過負荷は
外科手術はおろか
薬物治療でも治らないのは
書記戦のやり取りで
おわかりでしょう

過負荷が絡みついた
心で改心なんか
したら

その先に
待っているのは
身の丈に合わない
地獄の苦しみですよ

それとも
あなたがたは私達に
苦しめと——

そう言ってる
のですか？

……

その通りだよ
蝶ヶ崎くん

俺達

苦しめと
言っている

苦しんで
悲しんで

悩んで
悔やんで

失って
償って

やり直せと
言ってるんだ!!

……わっかり
合えねえ

だから！
やり直すとか
無理なんだって！

やり直せるさ
なお

人生に
じんせい

リセットボタンは
あるんだぜ!

ゲームと現実の
区別くらいつけろ
げんじつ

ボケ

……なあ
黒神ファントムは
スピード重視の分
いつもよりパワーが
落ちたりするもんなのか?

……いえ
パワーはむしろ
上がります

基本スピードとパワーは
掛け算のように
比例するものですから
きほん
かけざん
ひれい

だよな

だ・た・た・ら・ど・う・し・て
蝶ヶ崎は
ちようがさき

ひの・かげ・せん・ばい
日之影先輩の
光速打撃を
しこたま喰らつて

あんなにも
ノーダメージで
いられるんだ?

ヒ

ユ



「そーいやお前の
過負荷はどうなんだ？」

「内心とかいう
得体の知れないものに
絡み付いてやがるのか？」

「言うまでも
ありませんよ」

「絡み付いて
もつれて」

「どこから手を
つけていいのか
謎めいています」

「なんなんだこいつの
手応えのなさは……？」

「いや手応えは
確かにあるんだ」

「しかし蝶ヶ崎自身が
まるで壊えていない——」

「おい
人吉」

「お前の『目』は
他人の視界を
覗けるんだよね？」

「だつたらその目で
蝶ヶ崎の狙いを
探ってみてくれよ」

「……球磨川曰く
『俺の』じゃねー
らしいですよ」

「だからあんまり
使いたくねーん
ですけど……」

「覗き見してるみたいない
嫌な気分にな
っちゃいますし……」

いいからやれよ
ごちゃごちゃ言ってる
改造すぞ

お兄ちゃんの話
聞く限り
あの野郎に何かあるのは
間違いないんだからよ！

はあ
はあ

じゃあまあ
師匠の命令であれば…

「欲視力」
!!

くっ…
相変わらず
過負荷の視界は
気持ち悪いぜ…

何を見てるんだ
こいつ？
日之影先輩じゃねえ…

鉄骨…？ 全体の
支柱となる最下層あたりの…

!?

ガッ
ギギイッ





大きくて
重くて
堅いものは

反面
崩れやすくも
壊れやすくもある

たとえばこの
作りかけの校舎も
根元の鉄骨が
数本折れるだけで
バランスを失い

あつけなくも
あっさりと
全体が崩壊する！



もつとも
その鉄骨数本を
折るために

あなたのパンチ
二十五発分のダメージが
必要でしたけどね

二十五発分の
ダメージ…？

お前一体
何を言ってるんだ

お前！
一体何をしたんだ！！

何も
していませんよ

私はあくまで
何もしていません

こんなのは
ただの

不慮の事故
ですから



セーフティネットも
何もあつたもんじや
ねえ……

日の影先輩を
校舎ごと地面に
突き落としやがつた！

そこまでの破壊力を
持った過負荷だったのか
あいつ……！

ちげーよ
名瀬先輩

蛾々丸くんの過負荷は
パワーとも
スピードとも無縁だぜ

受けたダメージを
他の場所に
押しつける

それが
蝶ヶ崎蛾々丸の
過負荷

『不慮の事故』だ

この場合は
日の影先輩に殴られた
ダメージを鉄骨に
送り続けてたんだろ

拳骨で鉄骨を
へし折るだけの
ダメージを与えたのは
大したもんだが

そのダメージは
蛾々丸くんの身体を
素通りしていたのさ

武道の達人が
殴られた衝撃を
地面に逃したり
するだろ？

蛾々丸くんはそれを
ワイヤレスで
できるんだと
理解しとけ

これでわかっただろ？
あいつがマイナス十三組で
唯一理性的な人間であった
理由って奴が

あいつは
心的外傷や精神抑圧
みたいな負傷までずっと
他人に押し付け続けて
きたんだから

だからあたしとか
怒江ちゃんみてーに
性格が歪むことは
なかったんだよ

…もつとも

押し付けられた奴が
その後どんな人間に
なったのかは
知らんがね

アホか
そんなもん…

ダメージを！
痛みを！傷を！何もかもを！
すべてを周囲に押し付けることが
できるなんて—ずっと
そうやって生きてきたなんて！

そんなもん性格が歪む
どころじゃ済まねーだろうが！

何をしている お前達！

決着だ！
日之影さまの
生死確認を上げ！

恐らくは
絶望的だろうが

ひよつとすると
まだ風があるかも
しれん！！

…おいおい
「絶望的」はねえだろう
長者原くん

それは俺に
何よりも似合わない
言葉だぜ

それに
決着でも
ねーよ

ここはまだ
鉄骨の上で

地面じゃ
ねえし。



しつこいですね
日の影先輩

アンコールをした
覚えは
ありませんよ

まあそう言わずに
聞いてけや

俺の切り札

「光化静翔」――
まさかのアコースティック
バージョン!!

もちろん蝶々奇が
志布志と
つるんでいる理由も

何だあいつ

いさなり
ハ、ン、て

死にもくはないから



冥利くん！
急がなもう
副会長戦始まつて
もとるで！

ちゅーか！

ようよう
退院したゆーのになんで
遅刻すんねん！！

第87箱 「あたり前の人望です」

ケッ！

しーがねーだろ
今日は姉ちゃんと
墓参りだったん
だから

引きこもりの姉ちゃんが
家を出る唯一の
イベントをサボれるか！

それに雲仙家は
じーちゃんとはーちゃんと
両親と弟ふたりが
死んでるからこの季節は
毎年大変なのさ！

……いや
身内死に過ぎやろ
自分

どんな人生
やねん

あの……
すみません
鍋島先輩

生徒会戦拳
副会長戦の会場は

こつちで
いいんでしょうか
……？



アコースティック
バージョン!!

『光化静翔』
……



はこ
第87箱

あ まえ じんほう
「当たり前の人望です」

ひのかげ
日之影くんの
アコースティック
非増幅は——

いや違う！
めだかちゃんの
分身の術は
あくまで
目の錯覚だけど

まさかあれも
めだかちゃんの…!?

ぶんしん
分身の術…!?

すべてが
じつたい
実体!!

最光速度による
全方位同時一撃!

これなら
不慮の事故の
起こりようも
あるまい

衝撃を飛ばす
隙間なんて
一ミリだってないぜ!

だから

だからなんで
あなた達はそういう風に

マイナス
過負荷を
理屈で考えちゃうん
ですかねえ――

二年マイナス十三組
「不慮の事故」
蝶ヶ崎蛾々丸には

回想すべき
過去がない

気付けば
彼には

何も
なくなっていた



…つまり
理屈じゃ
ないんですって

隙間があるうと
なからうと

私は受けたダメージを
どこにだって
押しつけられる——

じゃあ
お前……

このダメージは
どこに押しつけ

さあ
どこでしょう

あつちかなあ
こっちなあ

たぶんそう遠くない
場所だと
思うんですけど——



!?

なっ…!?

めだかちゃん!!

くろかみ
黒神っ…!?

あー
そこでしたかあ

そのザマじゃあ
飯に日之影先輩が
私に勝っても会長戦は
棄権ですかねえ

そう言えば確か
そういう状態を表す
いい辭がありましたよねえ
—何でしたっけ?

そう!

骨折り損の
くたびれ儲けだ!

ときに
日の影先輩

間接的にとはいえ
自分の攻撃が
仲間を傷つけるって
どんな気持ちなんですか？

私にも経験が
ありますけれど
やっぱり嫌なもの
なんですか？

骨折り損…？
くだらん
言葉遊びだな

鉄骨を
折ったところで

全身の骨を
折ったくらいで

この黒神めだかを
止められると思うのか

私は
生徒会長だぞ！

日の影空洞の跡を継いだ
生徒会長だ！

気骨以外の
全てを折られる
覚悟くらい

着任した瞬間に
決めておる！！



どうして
立てるんですか…？

全身の骨が
折れているのに

…嘘でしょう？



随分お疲れの
ようですね
日之影先輩

だけどこんなところで
蹲っちゃあ
危ないですよ？

あちらを立てれば
こちらが立たず

おやおや

取り扱いには注意しろって
書いてたっけなそういやあ…

よりによって今
時間切れかよ…

あーあ…

最初に時間を
稼いだ甲斐が意外と
ありましたかね

どうやら
「光化静翔」とやらは
もう使えないようですね

しかも
その異常性を
身につけるために

あなたは
「知られざる英雄」を
犠牲にしたらしい

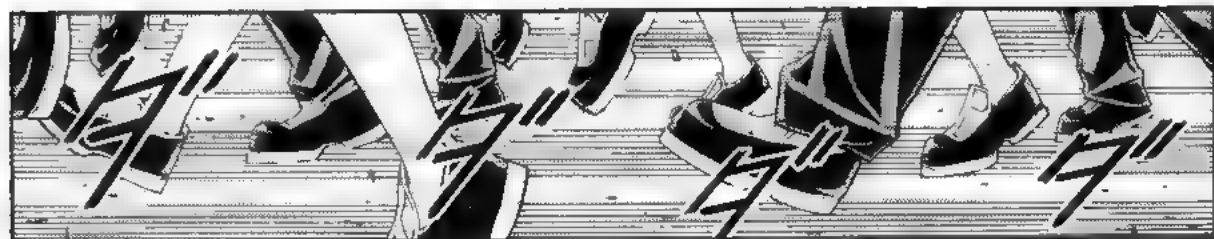
つまり
あなたには
もう

私に対抗しうる
手段は
残されていない!!

日の影先輩……

畜生!

一体……
どうすれば……



日の影
空洞の——っ!

勝利を
願って——っ!!





なにを
何をしている！
戦中一般生徒は
立ち入り禁止の
はずだろう？！

すみません！
しかしあまりの
お人数で…
大人数で…

あと園西井の
鑑みたい先輩が
すげー暴走しました！

……
お前ら…

なんで…

なんでコレ…
な面？

はい

ひのかげ
日之影さんが
戦ってるのに
応援にこないわけ
ないじゃないねえ？

そーそー

あんたが今まで 何回
俺達を守ってくれたと
思ってたんだよ

応援するくらいしか
お返しができねーのは
腑甲斐ないけどな

……
どういうことだ？
何が起こってる？

ひのかげせんぱい
日之影先輩は
誰にも認識できない
はずなのに…？

そうか…

「知られざる英雄」が
なくなつたから…

みんな
ひのかげ
日之影くんのことを
おもいだしたんだ…

ねたましいねえ——
大方ツイッターとやらで
日之影先輩の参戦を
知ったんだろうが

俺達が戦ってる時にや
みーんな球磨川の旦那に
ビビっちゃまって
一人も応援なんて
来てくれなかったのによ

それは
仕方ないでしょう
お姉さま

それにみんなが
ここに来たのは

今日は球磨川が
いないからというだけの
ことではありませんよ

これが二年間
箱庭学園を
守り続けた
生徒会長の

支持率などでは
計れない

当たり前
の人望です

ククツ...

不知火の奴...

最初から
これが狙いかよ

「光化龍翔」を俺に与えること
じゃなく——
「知られざる英雄」を
俺から奪うことが!

いいだろう！
踊おどってやるよ
不知火しらぬい！

こんな応援こゝと
されちゃあ
がんばるしかない
もんなあ~~~~!!

不知火...?
クッ!

だからなんだと
言うのです!
確認するまでもなく!

「知られざる英雄」が
ないということは、
以前ほどの強さもないと
いうことでしょう!!

強さつよも速さはやもなしで
どうやってこの私に!

この「不慮エンカウシタの事故」に
勝つというのです!?

はっ...
いらねーよ!

「知られざる英雄」も
「光化静翔」も!

そんな異常は
いつだって
いらなかったぜ!!

何故なぜなら俺は
いつだって!

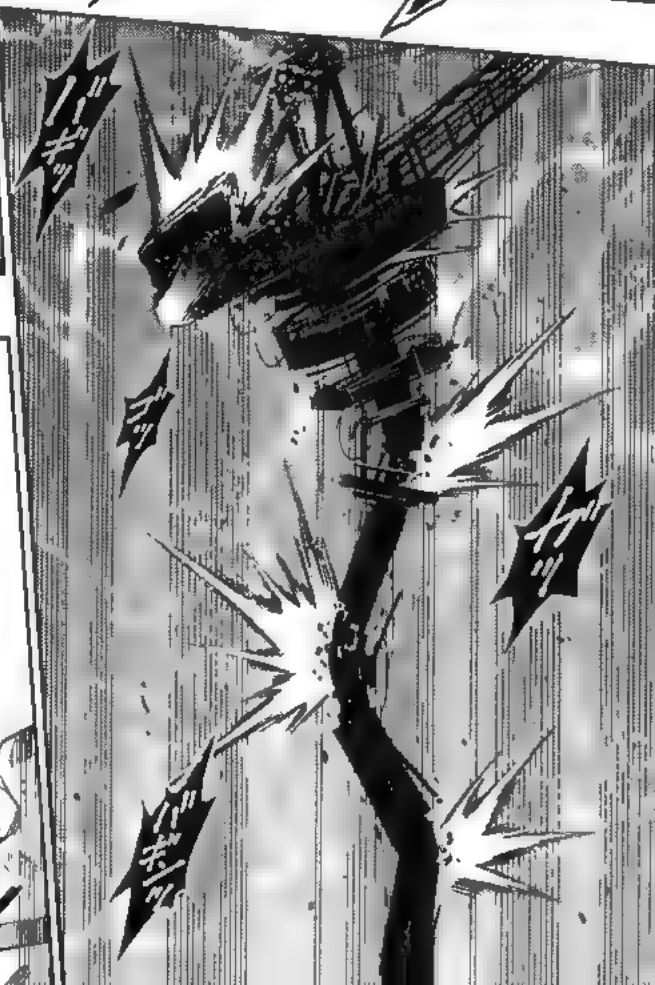
強さつよでも
速さはやでもなく!

気骨げんこつ一つで
戦たたかってきたんだ!!



折り…いや
砕き…!?

なっ…
鉄枝を…



ガッ
ガッ
ガッ



お前の過負荷で
押しつけられるのは
自分が受けた
ダメージだけだろ?

押しつける
ばかりで

たとえば
鉄柱のダメージを
肩代わりしてやることとかは
できないんだろ?

たとえ即死しようと
その「死」という
ダメージを他の場所に
押しつけることができる

そんなお前の過負荷は
黒神よりも完全に
球磨川よりも最低だ

だけどこれは
スキルを競う戦闘じゃなく
志を競う戦挙だぜ

お前は
他人のダメージに
無頓着過ぎる

ほら覚えてるか？
この「狂犬落とし」の
ルール——

相手と地面に
突き落とした方の
勝ち——

てめえ！
まさか自爆覚悟の
引き分け狙いか！！

引き分け？
ははっ——
過負荷じゃないんだ
狙うかよそんなもん

お前運もいい加減
俺達って奴が
わかってねーなあ

まその辺も
おいおい

わかりあって
いこうや



くっ…
くそ！

落下のダメージは
地面に押しつけた
ものの……

そうですね

ダメージの有無は
勝敗には無関係
でございます



一方、日の影さまは
蝶ヶ崎さまの身体の上に
乗っており

地面とは接点を
持っていない



よって副会長戦は
日の影空洞の勝利！

生徒会戦拳は
このまま会長戦へと
もつれ込みます！！

おおおおお
おおおつ！

すっげえ
——っ!!

いつも通り！
ひのかげせんばい
日之影先輩の
勝ちだああつ！

ありがとう
ひのかげ
日之影さーんっ!!

……ハン
蝶ヶ崎くんが
ひのかげせんばい
日之影先輩の強さを
恐れて選んだルールに

もしどお
文字通りでめーが
あしど
足元をすくわれた
って感じかな……

だいしやうぶ
大丈夫ですか
ひのかげせんかいら
日之影前会長……

いんど
二度の落下は
いかにあなたと
言えど……

くろかみ
黒神……

おれ
俺は……
せいとかいちやう
生徒会長としてよ

ひとし
人知れず学園を
まも
守っていたことを
ほこ
誇りに思っていた

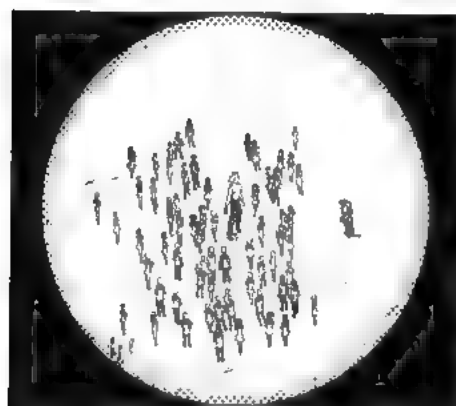
だれ
誰にも気付かれず
だれ
誰にも理解されず

それでも戦い続ける
自分のことが
好きだった

だけどやっぱ
いいもんだな

みんなに
おうえん
応援されて

みんなに
かんしゃ
感謝されるって



べんきよう
勉強させて
いただきました！

…はい！



つかこうで
寝めるべきは
むしろ
マイナス十三組でしょ

実際一勝もしないまま
会長戦にまで持ち込む
なんて大したもんだ☆

まだ肝心の会長戦が
残ってるって
いうのにさ！

あひやひや！
まるでもう
戦拳が終わった
みたいな騒ぎだねえ

さあていよいよ
あたしの出番か！

ここまでおーむね
注文通り！

あとは

くまがわせんぱい
球磨川先輩が
帰ってきて
くれれば――



「……」
「安心院副会長」

「意地悪しないで
そろそろ退して
くれないかなあ」

「僕の」

「はじまりの
過負荷」

嫌だね

それから
僕のことは
親しみを込めて

あんしんいん
安心院さんと
呼びなさい

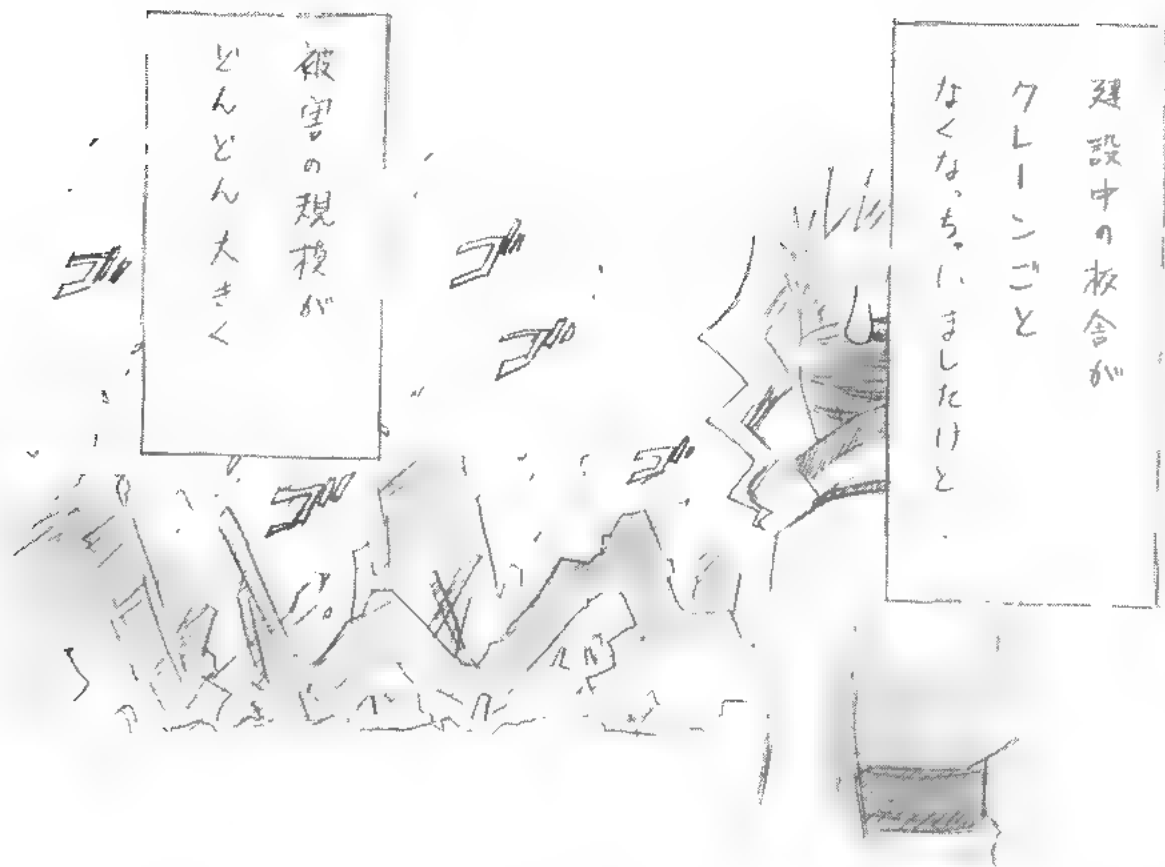
建設中の板倉が

クレーンごと

なくなりましたと

被害の規模が

どんどん大きく



十六世紀に
貴族の間で行われていた
面白いゲームがあつてね

奴隷の骨を身体の中から
一本ずつ順番に！
ハンマーで砕いていくんだ

骨を砕かれる奴隷は
「助けてくれ」と
涙ながらに頼むんだけど

最後には「殺してくれ」と
言い出す——果たして
何本目の骨でそう言うかを
みんなで仲良く賭けるのさ

とここできみは今まさに
そういう状況だと
思うんだけど

どうかな？

「僕の過負荷を
返して欲しい」
じゃなくて

「僕の過負荷なんて
いらない」と
頼む気には
ならないかな？

「……………」

あは！まだ諦めは
つかないって願だね——
よろしいならばもう一度
かかってきなさい

僕が貸してあげた
「手のひら餅し」を
下敷きにした

きみの「大嘘憑き」は
確かに恐ろしいスキルだ

だから
7932兆1354億
4152万3222個の
異常性と

4925兆9165億
2611万0643個の
過負荷

合わせて1京2858兆
0519億6763万
3865個のスキルを持つ
僕にだってひよっとしたら
勝てるかもしれないぜ

第88箱

「初めまして」

おっと！
きみと人吉くんは
ひとつずつスキルを
貸し出してるから
今はたったの1京2858兆
0519億6763万
3863個かな？

やったね！
これは大チャンスだよ
球磨川くん！





「…やれやれ」
「ものには限度^{げんど}つてものがあるだろ 安心院^{あんしんいん}さん」

「少年^{しょうねん}ジャンプのバトル漫画^{まんが}も真っ青^{まっさへ}なインフレだよ」

うん？
ああそう言^いえば
球磨川^{くまがわ}くんは昔^{むかし}から
少年漫画^{しょうねんまんが}が好きだったね

僕はそーゆーのは
小学校^{しょうがっこう}より先に
卒業^{そつぎょう}したけれども



「はは」
「そうなんだ」

「やつぱり女^{おんな}の子^こには
少年漫画^{しょうねんまんが}は
幼稚^{ようち}に映^{うつ}るかな？」

いやいや
とんでもない

むしろ少年漫画^{しょうねんまんが}は
僕^{ぼく}みたいなたんちゃんには
高尚^{こうしょう}過ぎてね



なぜなら少年漫画^{しょうねんまんが}が
読者^{はくたち}に教^{おし}えてくれるのは
友情^{ゆうじょう}・努力^{どりょく}・勝利^{しょうり}じゃなく

最後^{さいご}に勝^かつのは
能力^{のうりょく}のある奴^{やつ}だと
いう

極めて残酷^{げんじつ}な
現実^{げんじつ}だからだ

能力があるから
友達ができる

能力があるから
努力ができる

能力があるから
勝利できる

そんな救いのない
現実を

能力のある僕としては
見えて
忍びないんだよ

ま
球磨川くんは
いーんじやない？

一生少年漫画を
読んでいれば

「……」

「はっはっは！
そうだね
その通りだ」

「いやー
安心院さんには
いつも教えられる
なあ！」

「なにを
どうしたところで」
「僕達がめだかちゃん達に
勝てるはずがないよねえ！」

「あーあ
馬鹿馬鹿しい」

「らしくもなく
がんばっちゃったな
恥ずかしい！」

「諦めた諦めた！」

「さーて家に帰って
大好きな少年漫画を
読もうっと！」



待てよ。

僕なんか
言いたいことを
言わせるなよ

大好きな
少年漫画が
侮辱されたんだぜ

怒って言い返せよ
腰抜け野郎

「……」
「言い返すこと
なんてないよ」

「能力者が無能力者に
勝つ」

「きみの言う通り」
「それが世界の現実だ」

そうやって
結論を投げ捨てるのは
感心しないな

たし、

追い詰められたら
格好つけたがるのは
悪い癖だぜ？

どうせここは
夢の中で心の中だ
——きみの本音なんか
誰も聞いちやいないさ

だから
格好つけずに

括弧つけずに
言ってごらん？



あいつらに
勝ちたい



格好よく
なくても

強くなくても
正しくなくても

美しくなくても
可愛げがなくても
奇麗じゃなくても

格好よくて
強くて正しくて
美しくて可愛くて
奇麗な連中に勝ちたい

才能に
恵まれなくっても

頭が悪くても
性格が悪くても

おちこぼれでも
はぐれものでも
出来損ないでも

才能あふれる
頭と性格のいい
上り調子でつるんでる
できた連中に勝ちたい

友達ができないままで
友達ができる奴に
勝ちたい

努力できないままで
努力できる連中に
勝ちたい

勝利できないままで
勝利できる奴に
勝ちたい

不幸なままで
幸せな奴に
勝ちたい！

嫌われ者でも！

憎まれっ子でも！

やられ役でも！

主役を張れるって
証明したい！！



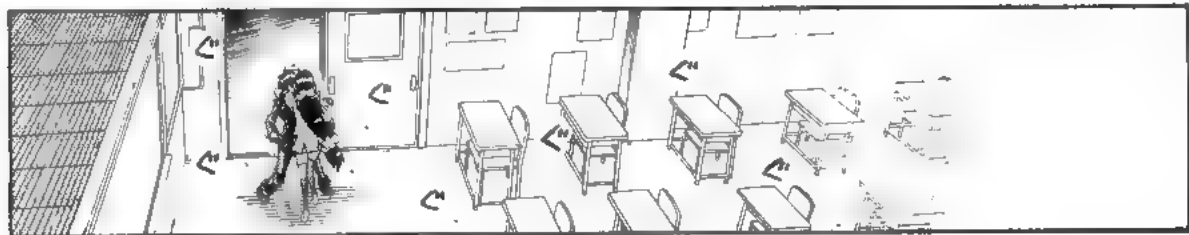
やれやれ

まったく
何を言うかと
思ったら
はーあ

減茶苦茶だし
支離滅裂だし
自分勝手だし
荒唐無稽だし

球磨川くん！
きみの言うことは
括弧が取れても
わけがわからないよ







なーんてね

いま
リングアサービス
今の「口写し」で
確かに返したよ
球磨川くん

きみの

はじまりの
マイナス
過負荷――



引き換えに
「大嘘憑き」は
「手のひら睨し」として
返してもらったけど

いま
今のきみには
あれはもう
必要あるまい？

その無能力だけでも
めだかちゃん達には十分
対抗できるだろう



対抗できちゃって
いいのかよ

きみはめだかちゃんや
善吉ちゃんの方に
肩入れしてると
思っていたけれど

僕は平等なだけの
人間だよ

人吉くん
視力を貸して
あげたのと

きみに過負荷を
返したので
イーブンだ

それに
対抗しようが
抵抗しようが

僕は結局
きみの負けは
避けられない運命だと
思っているしね

とにかく
返してくれて
ありがとう

これで

僕は
僕になれる



お礼に
見せてあげるよ

不幸が幸福を
凌駕する

歴史に残る
衝撃映像を



括弧つけないまま
行っちゃったか

ふふっ——
まったく
球磨川くんも
人吉くんも

めだかちゃんも
昔っから
手がかかるったら
ないよね



まったく
どーでもいいこと
いつまでもメてる
つもりなんだか

ぼく
僕から見れば
ぜんいんびようどう
全員平等に

ただの
くだらねー
カスだつてのに

光も闇も

正義も悪も

毒も薬も

勝ちも負けも

強さも弱さも

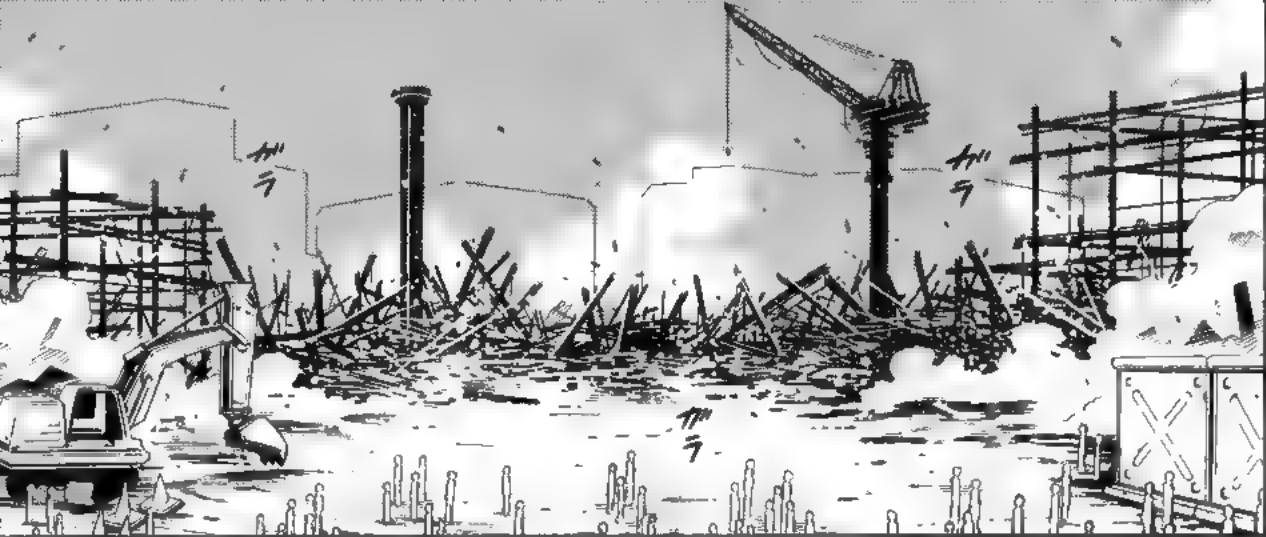
黒も白も

成功も失敗も

幸福も不幸も

本当は全部
同じものだって

どうしてみんな
気付かないのか
なあ……



はっはっは！
いいじゃないですか
名瀬さん
そんな細かいこと
気にしなくっても

それより今は
日の影先輩の勝利を
称えましょう！

いやー
見事でした
完敗でした！

この蝶ヶ崎蝶々丸！
一片の悔いなく
敗北を認めます！

でー
それが
どうしました？

あなたは瀕死なのに
私はピンピンしていて

もちろん何一つ
敗心していない！

あなたは
ルールを利用して
こすく勝った
だけでしょ

そんなザマで
どうやって不幸を
ブラスにすると
いうのですか？

結局あなたのしたことは
その辺のいい奴と
何ら変わらないんです

思い上がった
自己満足は
ひとりですて
くださいよ

英雄さん

けっ！

お前らこそ
思い上がったんじゃ
ねーよ！





のいて。





初めまして
めだかちゃん

僕だよ

…ああ
そうだな

貴様の言葉に——
貴様の心に

ようやく
会えた
気がするよ

箱舟中学第六+六代
生徒会執行部



あんしんいん

あんしん

たいさく

安心院さんのこれで安心マイナス対策①

マイナスとしては典型的な症例と言えるだろうね。問答無用で器物や人物を害してしまうこの子の能力は「自分は愛されてはならない罪深い存在だ」という罪業妄想から生じている。罪深いくらいで愛されちゃダメだったら、この世に愛される奴なんか一人もいないってのにとんだ勘違いだよ。潔癖症が腐敗を招くと言うのは何とも皮肉な話だけれども、逆に愛されない自分を肯定するために、この子は能力に歯止めをかけていないところがある。愛されない理由をわかりやすく作り出すことで、心を平静に保っているわけだ。だから対策は二通り。愛してやるか、逆に能力の方を肯定してやるかだ。まあどちらも半端な覚悟じゃできまいがね。だけど実は、付き合いに覚悟が必要なのは、どんな人間を相手にするときだって同じなんだぜ。

えむかえむかえ
江迎怒江ラフラフレッシュ
「荒廃した腐花」

あんしんいん あんしん たいさく
 安心院さんのこれで安心マイナス対策②

この子はやばい。きみの命に予備がないなら、絶対にかかわっちゃいけない。死角がないにもほどがある、あまりに危険なマイナスだ。だからと言って、逃げたら逃げたで、極めて好戦的なこの子は喜び勇んで追ってくるので、見かけたらそうとすれ違うのが正解だ。もしも機嫌が悪ければ見逃してもらえるはずだよ。仮に対峙する羽目になった場合、素人が変に手を打つと神経を逆撫でして「傷を広げる」恐れがあるので、いくつかある上級者向けの「致死武器」対策はここでは教えず、使い手に対する対策だけを使うにとどめよう。えー、この子は容姿を蓄めると(特に胸関係)、照れてどこかにいっちゃうらしいよ。たぶん、蓄められ慣れてないんだろうな。まあ失敗した場合の責任は取れんがね。



しぶしぶき
 志布志飛沫
 スカーデッド
 『致死武器』

あんしんいん あんしん たいさく
 安心院さんのこれで安心マイナス対策③

対策も何も、放っておけばいい。こちらから仕掛けられない限り、実に無害で安全な能力だ。使い手に攻撃性がないわけではないが、この子の前で偉ぶらなければ（あるいは明白に偉くなければ）特に問題は生じない。逆に言うと、間違っても上から何かを言っちゃあ駄目だ。説教なんてもってのほか。精神面が全く鍛えられていないので、常識の枠を超えた切れ方をされる。ちなみにダメージを「跳ね返して」いるわけではないので、「致死武器」に類する能力は有効だ。まあすぐにどこかに押しつけちゃうだろうけど。ただ、能力的制約ではなく主義として、なぜか受けたダメージを、ダメージの原因である相手に直接返すことはあんまりしないらしい。付け入る隙にはなりそうもないが、それは「無傷」に対するこの子なりのスタンスなのかもしれないね。



ちょうが さきが が がまる
 蝶ヶ崎蛾々丸
 エンカウンター
 『不慮の事故』

次巻、遂に迎えた

会長戦に更なる波乱!!





『却本作り』!!

だから遠慮なく
使わせてもらっせ

僕の
禁断の過負荷

マイ ナ ス

そして... 過負荷との
激闘に決着!!

めだかボックス 第11巻

2011年

8月発売予定!!

■ジャンプ・コミックス

めだかボックス

Ⅱ「初めまして」

2011年5月7日 第1刷発行

著 者 西 尾 維 新

©NISIOISIN 2011

暁 月 あ き ら

©Akira Akatsuki 2011

編 集 ホ ー ム 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050

電話 東京 03(5211)2651

発行人 鳥 嶋 和 彦

発行所 株式会社 集 英 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
〒101-8050

03(3230)6233(編集部)

電話 東京 03(3230)6191(販売部)

03(3230)6076(読者係)

Printed in Japan

製版所 株式会社 コスモグラフィック

印刷所 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁
(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合は
お取り替え致します。購入された書店名を明記
して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集
英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で
購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製する
ことは、法律で認められた場合を除き、著作権の
侵害となります。また、業者など、読者本人以外
による本書のデジタル化は、いかなる場合でも
一切認められませんのでご注意下さい。

ISBN978-4-08-870224-7 C9979